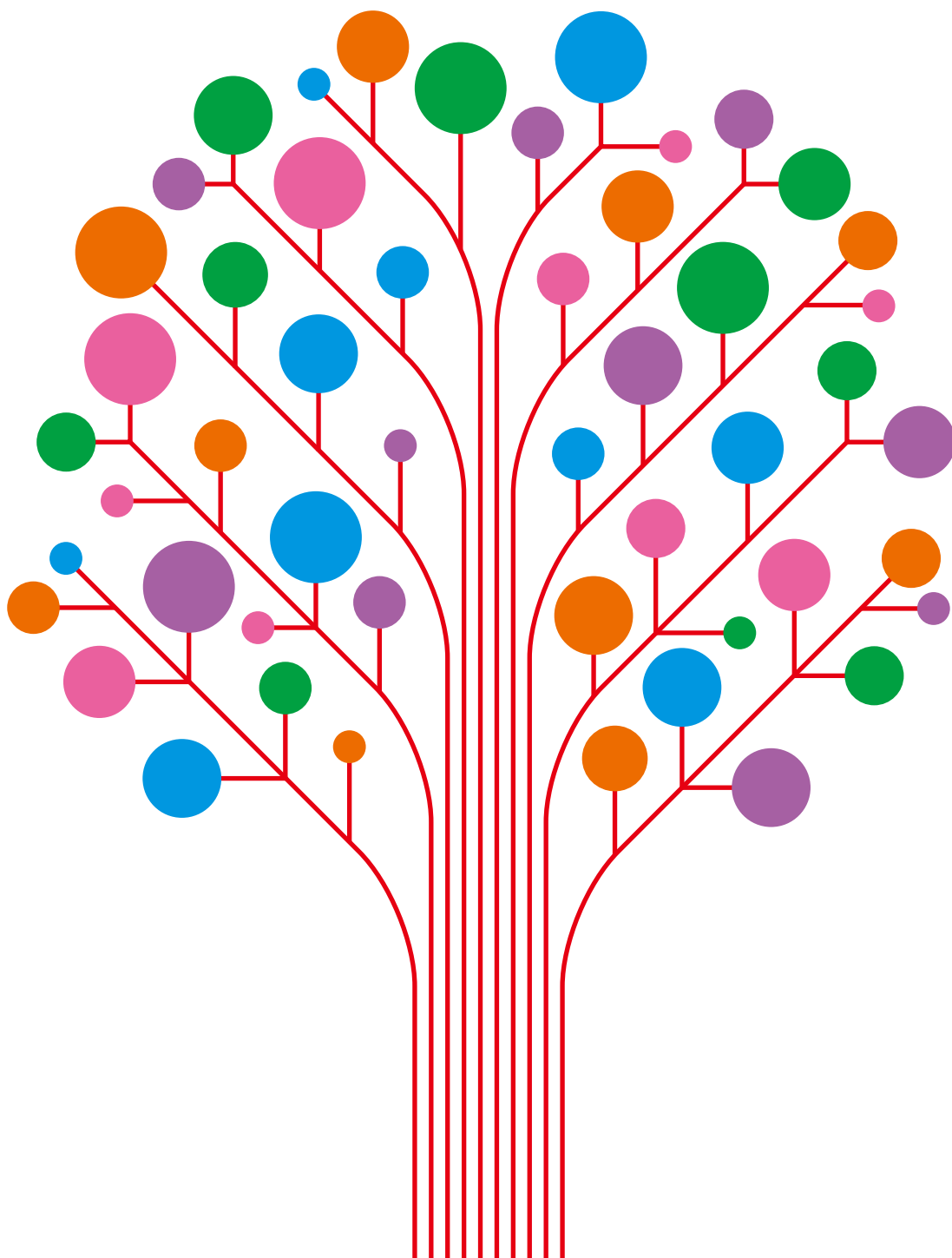


NEW NORMAL EVOLUTION

グッドホールディングスグループの進化論



NEW NORMAL EVOLUTION

グッドホールディングスグループの進化論

私たちグッドホールディングスグループは、
その時代の社会課題を解決することで自らを進化させてきました。

目の前にある課題から目を逸らさず、
「自分たちにできることは何か」と考える。
「それは未来の社会によいことか」と考える。

どんな時も社会とその未来を見据え、解決すべき社会課題を前にして、
素直に、真摯に取り組み、その度に自らも進化する。
これが1953年の創業から続く私たちの事業の軌跡です。

このような私たちの進化が子どもたち、そのまた子どもたちの世界を創り、
よりよい未来とともにあるように。

これからも社会と社会が抱える課題に向き合い、
未来の社会を思い描きながら環境ビジネスを継続、進化させ、
社会に貢献してまいります。

Contents

01-02	グッドホールディングス グループの進化論	【事業紹介】 15-20 株式会社リヴァックス	【ESGの取り組み】 32-36 コーポレート・ガバナンス
03-04	トップメッセージ	21-24 株式会社リリーフ	37-40 環境における取り組み
05-06	経営理念と価値創造	25-26 株式会社ダイキョウクリーン	41-45 従業員とともに
07-08	グッドホールディングス グループ概要	27-29 株式会社大栄 株式会社大協	46-53 地域社会とともに
09	財務情報・非財務情報	30 Gキャリア(株式会社大協)	54 ISO26000対照表
10	2020年度トピックス		
11-14	【特集】 若手リーダーに聞く 進化する環境ビジネス		

コーポレートメッセージ

捉える、応える、超えていく

毎日グッドを創る。
少しずつ、創っていく。

その仕事がなんであろうと。どこであらうと。
はじめでも、おわりでも。

それは、人を、地域を、社会を、
ちょっとだけ前に、わずかだけ先に、
進ませるものであると信じたい。

捉えよう。
そこにある問題を、わたしたちにしかない目で。
応えよう。
わたしたちにしかできない方法で。
超えていこう。
今あるわたしたちの姿を。

編集方針

「サステナビリティレポート」は、お客様をはじめ、地域住民の方々や従業員とその家族、ステークホルダーのみならず、グッドホールディングスグループがめざす姿や持続的な成長、企業価値向上の取り組みについて、より一層ご理解いただけるよう、毎年発行しております。

2020年度はニューノーマル時代を迎えるにあたり、当社グループにとって事業を継続することそのものがSDGsへの貢献と考え、そのためには新たな社会・事業環境へ適応していくことが重要という思いから「進化論」をテーマとし、みなさまに今後もさらに成長した姿を発信していきたいと考え制作いたしました。

対象組織

グッドホールディングス株式会社、株式会社リヴァックス、株式会社リリーフ、株式会社ダイキョウクリーン、株式会社大栄、株式会社大協（報告書は各社のホームページでも公開しており、英語版についてはホームページのみの掲載としております）

対象期間

2020年度（2020年4月～2021年3月）※活動報告に一部2021年度を含む

発行月

2021年9月（次回：2022年9月予定）

対象分野

事業活動に関する環境的側面、社会的側面、経済的側面

参考ガイドライン

社会的責任に関する国際規格「ISO26000」/GRIガイドライン第4版/環境省「環境報告ガイドライン」

本レポートでは、ISO26000「社会的責任に関する手引き」の中核主題である7項目をもとに、「コーポレート・ガバナンス（組織統治、公正な事業慣行）」、「環境における取り組み（環境）」、「従業員とともに（人権、労働慣行）」、「地域社会とともに（消費者課題、コミュニティへの参画およびコミュニティの発展）」のとおり、編集しております。

いかなるときも、
社会の基盤として事業を継続させる。
それが私たちの責任であり、誇りです。



グッドホールディングス株式会社
代表取締役社長

赤澤 健一

エッセンシャルワーカーとして 改めてその責任を自らに問う

新型コロナウイルス感染症の流行は、依然、私たちの生活や経済に大きな影響を及ぼしております。まずは、新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになった方々に謹んで哀悼の意を表するとともに、罹患された方々とそのご家族、関係者の方々に心からお見舞いを申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の経済への影響は今後もしばらく続くと想定されますが、グッドホールディングスグループにおきましては、従業員の感染予防と安全確保を最優先に考えつつ、新しい方法、新しい働き方でこの難局を乗り越えていく所存です。

当グループは創業以来、社会課題に向き合い、それらに 대응することで環境ビジネスを展開させてまいりました。2015年にホールディングス体制に移行してからは、株式会社リヴァックス、株式会社リリーフ、株式会社ダイキョウクリーン、株式会社大栄、株式会社大協の6社体制となり、それぞれ異なるマーケットで成長をめざし走り続けております。

そんな中でのコロナ禍は、「私たちの仕事は社会基盤である」ということを改めて認識させていただく機会となりました。緊急事態宣言下では、家庭ごみが急激に増加しました。社員ひとりひとりが感染リスクと戦いながらもエッセンシャルワーカーとしての責任を胸に平時と変わらず日々の業務を遂行し、市民のみなさまの暮らしに貢献し続けることができたのは、「私たちの仕事は市民生活を守ることである」との思いにほかなりません。

今後も引き続き、社会生活の基盤を支え続けるべく、責任と誇りを持って事業を継続してまいります。

非常事態における 事業ポートフォリオの強さを認識

2020年度の経営につきましては、第1四半期は新型コロナウイルス感染拡大の影響で営業利益は減益となりましたが、第2四半期以降は一気に昨年同期の利益を超える結果となりました。

第1四半期は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、産業廃棄物を扱う株式会社リヴァックスは大変苦戦し、飲食業界に携わる株式会社ダイキョウクリーンは緊急事態宣言が発出された4月、5月は業務がストップするような事態となりました。一方で、株式会社リリーフは自粛期間中の

「巣ごもり需要」により出張買取の売上が大きく増加しました。出張買取は数年前からブームの兆しがありましたが、コロナ禍を機に大きな波が到来し順調に推移しました。

2020年度は当グループの事業ポートフォリオの力強さを感じた年でもありました。業績を伸ばした事業はさらなる成長路線へ戦略を新たにし、苦戦した事業についても「事業基盤を強化する期間」と捉え、将来の飛躍に向け前向きな取り組みがなされていたと思います。

バイオガス発電プラント建設を開始 2023年には再生可能エネルギー事業へ

株式会社リヴァックスは、2021年度よりバイオガス発電プラントの建設を開始、2023年には有機性廃棄物から再生可能エネルギーをつくる事業をスタートさせます。従来から取り組んでいたリサイクルが、ついに再生可能エネルギーとつながり、発電という価値が加わります。それは、近い将来、地域のごみをエネルギーとして循環させる仕組みを実現することで地域に貢献できるものであると考えています。

2020年10月の国会で「2050年カーボンニュートラル宣言」が行われましたが、バイオガス発電プラントの建設は、再生可能エネルギーの分野にいる企業として「思い描く未来」を創っていく事業の第一歩となります。

人生100年時代、「五方よし」の 経営理念を次世代に受け継ぐ

「人生100年時代」といわれる時代になりました。当グループでは現在、30代後半から40代の若い社長や役員が活躍しています。この若きリーダーたちは今後20年は最前線で活躍することが可能で、自己実現が可能です。

だからこそ、自分たちだけでなく、自分たちの子どもや孫の世代にもつながる社会をよくしていくための取り組みに挑戦してほしいと考えています。そのために、当グループの「事業機会を積極的に活かしていく」という社風を自らはどう活かすのか。P11からの特集ページでは、若きリーダーたちの環境ビジネスにかける思いや、将来の夢やビジョンについて自由に議論する場を設けております。

環境ビジネスは、よりよい未来を創るビジネスです。私たちは、若く優秀な人材がそのような未来に熱い思いを持ち、果敢に挑戦できる企業でありたいと考えています。

「五方よし」の経営理念のもと 環境ビジネスを通して

未来の明るい社会を創ることをめざします。

私たちが掲げる経営理念「五方よし」は、近江商人が商売訓としていた「売り手よし」「買い手よし」「世間よし」の「三方よし」に、事業に従事する社員を含む関係者が自らの成長と豊かさを実感できる「手代よし」、未来の担い手である次世代への責任と持続可能な社会の構築に取り組む「孫子よし」を加えたものです。

地域の方々や取引先、行政機関、社員やその家族といったさまざまなステークホルダーとの関係を大切にしながら、常に時代の先を見据えて未来に向かって進化する。「いま、社会にとって何が大切なのか」「未来の社会のためにどのような事業を行うべきか」を常に意識し、社会課題に応じていくことが私たちの使命です。



私たちの「行動指針」は、
進化し続ける姿勢を
育んでいます。

私たちが展開する環境ビジネスは社会の基盤を形成する重要なもの。地域社会との信頼関係を第一に、すべての従業員が凡事徹底を基本に確かな責任と誇りをもって仕事に取り組んでいます。だからこそ、その時代が必要としている新たなサービスを創り出すことが可能なのです。

行動指針

1 責任とプライドを持って 仕事に取り組む

お客様から報酬をいただいている自覚を持ち、常にお客様に満足いただける結果(成果)を残せるよう高いプライドを持ちながら仕事に対して真摯に取り組む

2 自主性と協調性の バランスをとる

「今、自分が何をすべきか自ら考えて実践する」という自主性と、「みんなのために考え、協力して物事に取り組む」という協調性のバランスをとる

3 前向きにチャレンジする

現状に満足せず、前向きに新しいことにチャレンジし続け、「仕事を真剣に取り組むからこそ楽しい(面白い)」という姿勢で取り組む

4 どんな状況にも適応する (適者生存≠弱肉強食)

変化に敏感であり、過去の成功や失敗、習慣に囚われず、様々な難しい状況でも適応する努力をし続ける

5 適正な利益を確保する

われわれが責任を負う人々の期待に応えるため、且つ事業基盤の確立と将来の繁栄のためには適正な利益の確保が不可欠であることを認識する

私たちにとって
「事業を継続すること」が
SDGsへの貢献と考えます。

環境ビジネスに携わる私たちが見つめているのは社会の未来です。SDGs(持続可能な開発目標)をさらに明るく確かな未来をもたらすための過程と捉え、コーポレート・ガバナンス、人権・労働慣行、コミュニケーションの分野においてSDGsを踏まえた取り組みを行っています。



グッドホールディングスグループのSDGsへの取り組み

コーポレート・ガバナンス

- 組織統治
- 法令順守
- 情報開示・説明責任



環境における取り組み

- マテリアルバランス
- 活動の目標と実績
- 環境負荷低減の取り組み
- 環境パフォーマンスデータ



従業員とともに

- 活動の目標と実績
- 労働安全衛生の取り組み
- 人事に関する取り組み
- 安心して働ける環境づくり



地域社会とともに

- 活動の目標と実績
- お客様とのコミュニケーション
- 消費者課題の取り組み
- 苦情・事故



グッドホールディングスグループ概要

課題に応えるだけでなく、 課題を見つける力で 進化してきました。

私たちの強みは、あらゆる課題に応えられる力をもっているだけではありません。社会基盤として目の前の事業を継続しながらも、常に新しい課題を見つけ、その課題解決に尽力することで進化してきました。

だからこそ、1960年に家庭ごみ、事業ごみ収集事業からスタートした事業は、1970年には産業廃棄物処理事業へ、さらには高齢化社会、食品ロスといったその時代のさまざまな社会問題に着手し、事業化を実現させてきたのです。2021年にはバイオガス発電プラントの建設を開始。かねてから資源循環という課題に挑んできた当グループのリサイクル事業が、近い将来、再生エネルギー事業という新たな分野へ展開しようとしています。私たちは、社会とともにある企業として、これからも進化を続けます。



GOOD HOLDINGS

グッドホールディングス 株式会社

所在地：兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番16号
代表者名：代表取締役社長 赤澤 健一
設立：1960年 資本金：92百万円
従業員数：12名

事業内容

グループ財務・経理・人事・労務・
広報、経営支援および総合戦略の策定

連結売上高 **3,771百万円**※1

※1 単位未満切り捨て（特に断りのない場合、以降も同様）

グループ従業員数 **267名**※2

※2 従業員数は常用雇用者（社会保険負担をしている者：従業員兼務役員除く）の数

株式会社リヴァックス

産業廃棄物の収集運搬・中間処理
各種施設の清掃・管理

所在地：兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番16号
代表者名：代表取締役社長 山本 英治
資本金：81百万円 従業員数：59名
売上高：1,464百万円

事業内容

産業廃棄物・特別管理産業廃棄物の収集運搬
産業廃棄物の中間処理（破碎・乾燥）
飲料系商品のリサイクル
排水処理施設などの清掃・管理

株式会社リリーフ

おかたづけサービス
海外リユースサービス

所在地：兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番26号
代表者名：代表取締役社長 赤澤 健一
資本金：50百万円 従業員数：32名
売上高：406百万円

事業内容

おかたづけサービス
（遺品整理、生前整理、残置物撤去）
海外リユースサービス

株式会社ダイキョウクリーン

グリストラップ清掃

所在地：兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番16号
代表者名：代表取締役社長 津田 政房
資本金：80百万円 従業員数：36名
売上高：409百万円

事業内容

グリストラップや排水管を含む
水回りの衛生維持管理サービス

株式会社大栄

西宮市のごみ収集事業

所在地：兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番26号
代表者名：代表取締役社長 木村 裕之
資本金：10百万円 従業員数：70名
売上高：916百万円

事業内容

一般廃棄物の収集運搬（西宮市）
産業廃棄物の収集運搬

株式会社大協

伊丹市のごみ収集事業
人材派遣事業

所在地：兵庫県伊丹市北河原5丁目3番31号
代表者名：代表取締役社長 森下 和尚
資本金：6百万円 従業員数：58名
売上高：587百万円

事業内容

一般廃棄物の収集運搬（伊丹市）
産業廃棄物の収集運搬
人材派遣・人材紹介

グッドホールディングスグループの歩みと社会の変遷

グッドホールディングスグループの歩み

- 1953 創業者が廃棄物回収業を創業
- 1968 有限会社大栄衛生を設立
- 1974 大栄サービス株式会社を設立（リヴァックス）
- 1976 有限会社大協工業所を設立

- 1984 処理センターを兵庫県西宮市鳴尾浜に設置（リヴァックス）
- 1999 同業他社との協体制（アライアンス事業）構築（リヴァックス）

- 2006 産業廃棄物の破碎施設をリニューアル（リヴァックス）
大協工業所を株式会社に改組および大協に商号変更
- 2007 有機性産業廃棄物の乾燥処理施設が完成（リヴァックス）
同時にバイオマス燃料化事業を開始
- 2008 廃棄飲料系商品のリサイクル事業のため、リバース・マネジメントセンター完成（リヴァックス）
- 2009 大栄サービスの社名をリヴァックスに変更



破碎施設リニューアル



バイオマス燃料化事業開始



リバース・マネジメントセンター完成

- 2010 グリストラップ清掃事業を開始（ダイキョウクリーン）
- 2011 おかたづけサービス事業を開始（リリーフ）
- 2013 海外リユース事業を開始（リリーフ）
- 2014 関東事業所を東京都足立区に開設（リリーフ）
swell事業を開始（リヴァックス）
バイオマスボイラーを新設（リヴァックス）
- 2016 リヴァックスホールディングスの社名をグッドホールディングスに変更
埼玉県三郷市に関東事業所を開設（リリーフ、ダイキョウクリーン）
- 2017 グループとして東京都千代田区に東京オフィス開設
- 2018 愛知県名古屋市内に名古屋事業所を開設（リリーフ）
人材派遣・人材紹介事業（Gcareer）を開始（大協）



グリストラップ清掃事業開始



おかたづけサービス事業開始



海外リユース事業開始



swell事業開始



バイオマスボイラー新設

- 2021 バイオガス発電プラントの建設を開始

1950-

1960年代
高度成長期
1970
「廃棄物処理法」改正により、一般廃棄物と産業廃棄物という概念が誕生

1980-

1980年代
バブル経済
1985頃～
家庭ごみの排出量が急増し始める
1990
バブル崩壊
1995
「容器包装リサイクル法」制定
1997
「京都議定書」
地球温暖化の原因となるCO₂などの削減率が定められる

2000-

2000
一人当たりの家庭ごみ（一般廃棄物）排出量が減少し始める
あらゆる廃棄物においてリデュース、リユース、リサイクルを主軸とした時代へ
2001
「廃棄物処理法」改正により、廃棄物処理のマニフェスト制度がさらに強化
コンプライアンスの遵守が重要視される時代へ
2007
「改正容器包装リサイクル法」完全施行により、さらに社会の「ごみの減量化」への意識が高まる

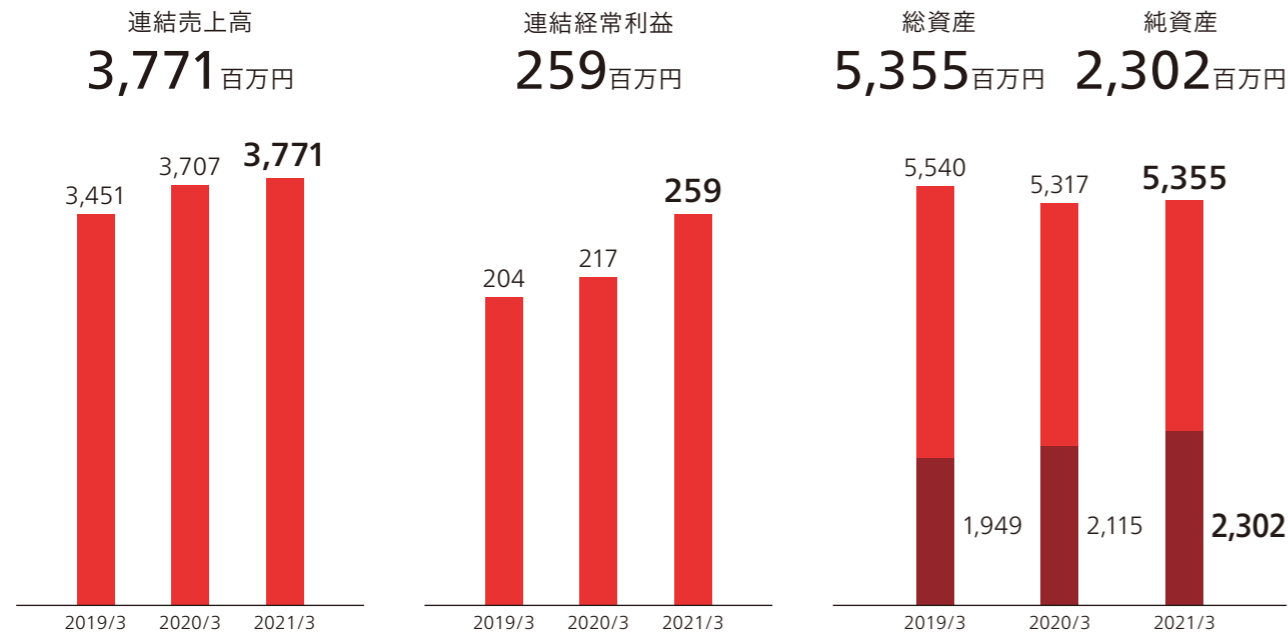
2010-

2010
「カンクン合意」にて、日本の温室効果ガス削減目標を「2020年度までに2005年度比で排出量を3.8%削減」とする
2010
孤独死者数が急増し、社会問題化
2015
「パリ協定」にて、日本の2030年度の温室効果ガスの排出を2013年度の水準から26%削減することを目標とする
2015
SDGs（持続可能な開発目標）が策定される
2018
食品ロスが社会問題に

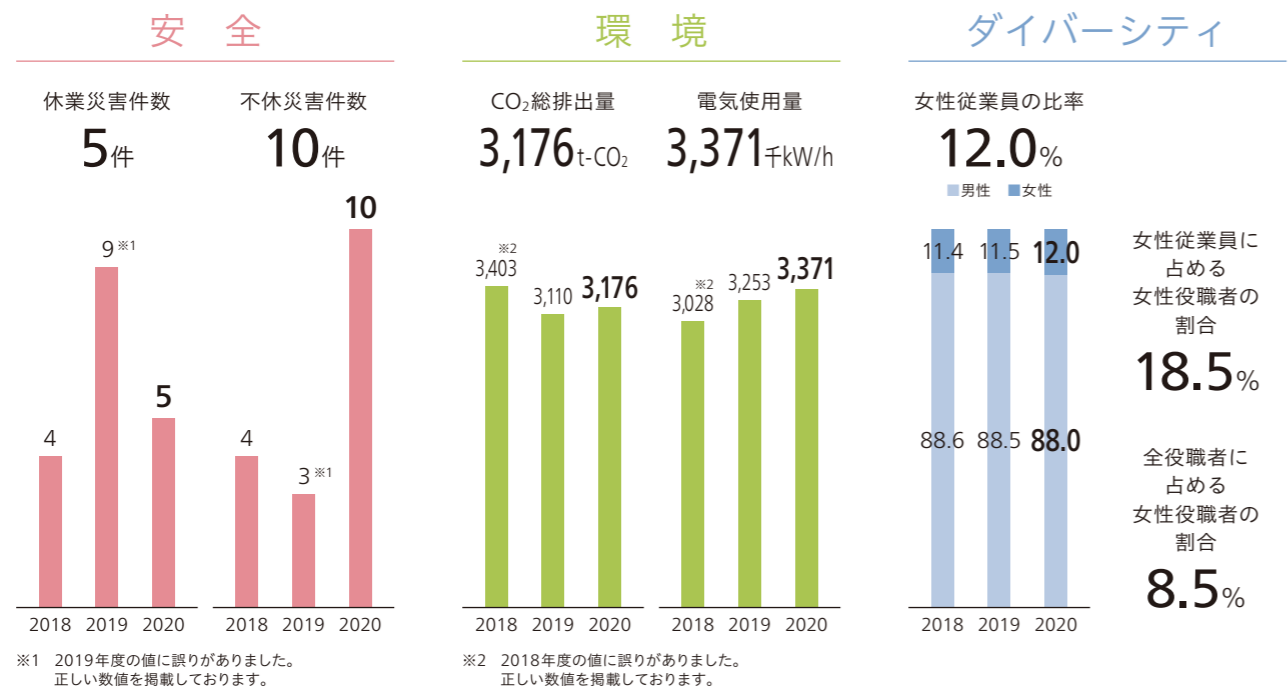
2020-

2020
菅総理所信表明演説で「2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現」を宣言
2021
気候サミットにて日本の2030年度の温室効果ガス削減目標を「2013年度から46%削減」を宣言

財務情報



非財務情報



グッドホールディングスグループ 2020年度 トピックス

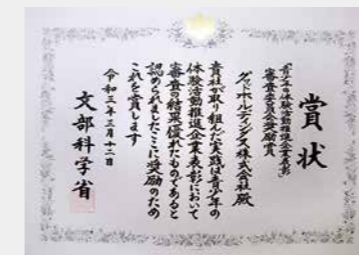
第24回環境コミュニケーション大賞「優良賞」受賞

当グループが発行しました「グッドホールディングスグループ サステナビリティレポート2020」が、第24回環境コミュニケーション大賞(主催:環境省、一般財団法人地球・人間環境フォーラム)の環境報告書部門において、「優良賞」を受賞いたしました。



令和2年度青少年の体験活動推進企業表彰「審査委員会奨励賞」受賞

文部科学省主催「令和2年度青少年の体験活動推進企業表彰」において、「子ども農業塾」の取り組みに対して審査委員会奨励賞が授与されました。



リヴァックス 食品廃棄物の処理事業で得た収益の一部をフードバンクに寄付

6月10日、前年度の産業廃棄物の処理事業で得た収益の一部を認定特定非営利活動法人フードバンク関西(兵庫県神戸市、代表理事:浅葉めぐみ[※])へ寄付いたしました。
 ※2020年6月時点

セーリングチーム 関西選手権3位入賞

9月20日~21日、兵庫県の新西宮ヨットハーバーにて「国際スナイプ級関西選手権大会」が開催され、グッドホールディングスセーリングチームが3位入賞いたしました。



2020年度 子ども農業塾 関係者イベント開催

10月18日、子ども農業塾の関係者イベント「稲刈り・芋ほり収穫体験」を開催いたしました。新型コロナウイルス感染拡大防止により今年度の子ども農業塾が中止となった為、当グループ会社の社員およびご家族の方のみに参加いただきました。



リヴァックス 新プラント建設計画

1月25日、兵庫県西宮市鳴尾浜に1日当たり最大70トン进行处理できるバイオガス発電プラントの建設を発表いたしました。都市近郊での大規模バイオガス発電プラントは珍しく、京阪神では最大規模の試みになります。



メディア掲載

グループ各社の特色ある事業について、各種メディアに取り上げていただきました。

リヴァックス

- ・神戸新聞(2020年6月17日)
- ・メガソーラービジネス(2021年2月12日)
- ・循環経済新聞(2021年2月22日号)

リリーフ(おかたづけ事業)

- ・循環経済新聞(2020年8月31日号)
- ・月刊廃棄物(2020年4月1日号)

大栄(さくらチーム)

- ・情報番組「ミント!」の「ナゼトキ」で放送(2020年3月9日放送)
- ・産経新聞「新しい日常をいきる」(2020年6月20日)

ダイキョウクリーン

- ・循環経済新聞(2020年9月14日号)など

若手リーダーに聞く

進化する 環境ビジネス

これまでにないスピードで時代が変化する昨今。

グッドホールディングスグループは、いつの時代も社会の動向にアンテナを張り、柔軟な姿勢で事業に取り組み、企業としての進化を遂げてきました。

ともに走り続けてきたグループ企業6社の若きリーダーたちに、環境ビジネスの未来とそれぞれの夢について聞きました。

コロナ禍を「機会」と捉え、さらなる成長をめざす

川村 まず、昨年度は新型コロナウイルス感染症の流行拡大が事業に大きな影響を及ぼしました。みなさんの事業や仕事への影響はいかがでしたか。

畑井 リヴァックスは食品を中心に産業廃棄物処理を行っています。その部分で事業が止まるということはありませんでした。しかし、私たちが得意としているお客様への改善提案や新規の営業が進まないというのが辛かったです。

矢野 一般廃棄物事業は、エッセンシャルワーカーとして「止めてはいけない仕事」という責任を改めて感じました。幸い、そのことは普段からみんな認識して仕事をしていたので、従業員一丸となってなんとしてもクラスターを出さないという意識で対策できたと思います。私たちにとっては売り上げへの影響よりも「事業を継続させていく体制」をどう作っていくかが大事で、それを一番の軸としていました。

平井 市民のみなさんから、たくさんメッセージをいただきましたよね。

矢野 そうですね。ゴミ袋に「ありがとうございます」というお礼の言葉を書いてくださる人が多く、従業員の励みになりました。みんな一緒に戦っているような気持ちになりましたね。伊丹市の介護施設でクラスターが起こったときは、ほとんどの業者が入入りを中止しましたが、私たちは介護施設の方と相談してマスクと手袋、消毒スプレーなどで対策を万全にさせていただいて対応しました。それには感謝していただけたと思います。

津田 ダイキョウクリーンはクライアントのほとんどが飲食業界なので、かなり厳しい状況でした。数字的にはなんとか乗り切りましたが、新規の営業活動ができなかったことが来期に響く可能性もあると思っています。泣きたいような時もありましたが、だからこそ2020年度は社内体制の強化に力を入れる期間としました。私たちはずっと成長路線で走り続けてきたので、立ち止まって体制を整えるいい機会だと捉えています。

津田 政房
1997年4月1日入社
(株)ダイキョウクリーン
代表取締役社長

川村 優香
2015年1月26日入社
グッドホールディングス(株)
経営サポート部 課長

畑井 浩希
2001年4月1日入社
(株)リヴァックス
取締役営業部長

小倉 浩二
1996年4月1日入社
(株)リヴァックス
取締役業務部長

児島 毅
2002年4月1日入社
(株)リヴァックス
取締役処理センター長

平井 里美
1996年4月1日入社
グッドホールディングス(株) 取締役
(株)大協 キャリア事業部長

赤澤 知宣
2014年7月30日入社
(株)リリーフ
取締役副社長

矢野 猛
1997年4月1日入社
(株)大協 取締役事業部長
(株)大栄 環境事業部長



東京からリモート参加
伊藤 隆
1997年4月1日入社
(株)ダイキョウクリーン
取締役

「場が人を作る」 人が活躍できる組織に

赤澤 リリーフは、グループの中で唯一BtoCの事業を行っています。第一波がやってきた春頃はかなり売り上げは落ち込みましたが、その後、「コロナで実家を片付けに行けない」という遠方地域からの依頼など、これまでになかった顧客ニーズが生まれました。世の中の状況に応じてお客様に提供する価値や宣伝チャンネルを変えていかなければならないことを実感し、サービスやその伝え方を見直しました。また、私たちもこの時期は社内体制を改めて見直し、企業としての基礎を強化することに努めましたね。コロナ禍で大変なことも多かったですが、企業としての体力はついたと思います。「場が人をつくる」ので、人が活躍できる場を増やしていくことが大事です。

津田 そうですね。ダイキョウクリーンも、人を育てる仕組みとメソッドのある企業でありたいと思っています。と同時に、人が育てば従業員の給料を上げ続けるのが命題です。そのためには、事業は成長を続けなければいけません。それも、肅々と、ではなくて飛躍したい。そのためには社内にあるルールを壊して別の姿に変えるぐらいのことも大事です。100点取れないからやめておこうというのではなく、20点、30点取れるからやる、という姿勢で新規事業を作っていきたいですね。

矢野 事業は人がつくります。私は「人が頭を使って考える訓練ができるような組織」にしたいと日頃から考えています。コロナでみなさんも実感したと思いますが、外部環境は変わります。5年後は、新しいことに違う考え方で取り組める人が求められる。人が考えることができる場を作って、考えられる人を大事に育てていきたいです。今、みなさんの話を聞いていて、やはりそういうことだと再確認しました。

平井 なるほど。私は採用や教育など長く「人」の分野に携わってきました。今は派遣事業をしています。次のステップとしては「人の採用・教育」を切り口に、社会や業界、顧客から必要とされるサービスを生み出したいという想いもあります。

川村 グッドホールディングスグループの「人の活躍」は

伊藤 関東の売り上げは一時期落ち込みましたが、現在ではコロナ前より売り上げは伸びています。「コロナ以前の努力がコロナの影響を超えた」といえるかもしれません。

川村 人材派遣事業のGキャリアは、かなり業績を伸ばしましたね。

平井 派遣事業立ち上げから3年で、黒字化を達成することができました。コロナ禍で安定を求める人が増えたこと、エッセンシャルワーカーの活躍が目目されたこともあり、すごく人が集まりました。もともとは環境ビジネス業界の人材不足を解消するために始めた事業ですので、そこを解決できたことは業界への貢献となったと思います。

小倉 Gキャリアは研修制度があるから、異業種からの未経験者も採用できたということでしょうか。派遣後も派遣先の企業と密に連携していると聞きました。

平井 そうなんです。未経験者の研修体制が整っていること、また、派遣スタッフと派遣先企業へのサポートを大切にする方針をとっていたことで、異業種からの転職者の受け入れが問題なくできました。コロナ禍の影響を受けた方にも働く場を提供することができたと思います。今後は業界の人材不足に貢献するだけでなく、エッセンシャルワーカーとして働きたいという人の期待にも応えていきたいですね。

すごいですよね。私は海外の仕事もしていますが、アジア諸国ではハード面の体制は進めていても、まだ市民レベルでは浸透していなかったりして、今後「人」を含めたソフト面が求められると思います。そこは私たちの強みでもあるので、将来的にはコンサル的な立場でアジア社会に求められる提案ができるのではないかと考えています。

津田 確かに。今は時期尚早かもしれないけれど、アジア諸国が先進国になった時に「グッドホールディングスの環境ビジネス」がひとつの選択肢となるよう、アンテナは張っておかないといけません。その時は、私も行こうかな。ダイキョウクリーンのノウハウでアジアの飲食業界の衛生に貢献できれば。

畑井 そのためには言い続けることが大事ですね。営業と同じで、誰がどこで思い出して声をかけてくれるかわからない。どこかで思い出してもらえよう、言い続けましょう。

社会に価値を創造し、 未来を創る企業でありたい

平井 リヴァックスは、バイオガス発電プラントの建設が始まりますね。産業廃棄物処理業の行き着く先がエネルギー事業なんです。

児島 そうですね。2021年の夏に着工して2023年には稼働の計画です。産業廃棄物から再生可能エネルギーをつくるという事業は、世の中の流れと合っていますし、働いているメンバーも自信をもって動いています。鳴尾浜という都市部にあるプラントとして、ひとつのモデルを成功させたいですね。「産業廃棄物を扱う会社が再生可能エネルギーをつくる」というのは、当社が再生可能エネルギー事業を手がける価値でもあるので、そこを追求していければ。

川村 スマートシティがつかれそうですね！

児島 実際には、まだそこまでは(笑)。でも、ひとつの都市型バイオガス発電プラントのモデルにはなると思います。まずはプラントを成功させるのが当面の目標。そこからどう広げていくかですね。FIT(固定価格買取)制度^{※1}がなくなった時にどう価値を出していくかも課題です。

津田 ひとつ成功事例をつくれれば、全国に展開できるん

ですか？

児島 簡単ではないですが、そのイメージも将来的にはあります。世界の脱炭素の動きは早く、再生可能エネルギーを作っていくを得ない世の中に向かっています。そこにどう切り込んでいくかですね。

畑井 私は再生可能エネルギー事業で売り上げを上げるのがゴールではなくて、社会やクライアントに何らかの価値を提供することがゴールだと思っています。私はずっと営業畑で来ましたが、数え切れないくらいたくさんのお客様への提案活動を行っている、売り上げの獲得という自社への貢献以外の意味が欲しくなる。「それがあればやり切れる」という何かがある。

津田 世の中の役に立つとか？

平井 社会に貢献するとか？

畑井 そう。それがあるとやはり強い。うちの仕事は価格面でメリットがあるものばかりではないです。それなのになぜお客様は任せてくださるのか。理由があるはず。そこに私たちの使命があると思います。再生可能エネルギー事業はそれを象徴するものかもしれないけれど、ここからさらに大きくジャンプするには、「自分たちは何を売っているのか」という価値に気づいて方向性を決めることだと思います。

小倉 仕事に価値をつけていくことは働く社員にとってもモチベーションにもなりますし、今後はそういう会社が残っていくと思います。

平井 そう考えると、グッドホールディングスの「五方よし」という経営理念は今の時代、改めていいなと思います。社会に求められ、みんなが幸せで次の世代にも引き継げる事業や会社でありたいですね。

川村 柔軟なスタンスで新規事業を作っていきながらも、そこに「社会的な価値」を求めるのは各社に共通する想いかもしれません。再生可能エネルギー事業が10年後どうなっているのかも楽しみです。みんなで「五方よし」を受け継げるような企業にしていきたいですね。今日はありがとうございました。

^{※1} 再生可能エネルギーの固定価格買取制度(Feed-in Tariff)のことを指します。一般家庭や事業者が再生可能エネルギーで発電した電気を、電力会社が買い取ることを国が約束する制度です。





株式会社リヴァックス

「循環型社会」の実現をめざして産業廃棄物の可能性を追求

株式会社リヴァックスは、産業廃棄物のリサイクルを構築することで資源循環化をめざしています。法令遵守と透明性を重視した経営を通じて、ステークホルダーの方々の信頼に応えること。そして、より質の高いリサイクルフローを時代に先駆けて創出することで循環型社会に貢献することを使命として事業を行っております。



代表取締役社長 山本 英治

産廃リサイクル事業から 再生エネルギー事業へ

当社は、廃棄物を削減することは社会の使命と考え、「有機性バイオマスの資源化事業」「食品リサイクル事業」「アライアンスネットワーク事業」という3つの事業で、あらゆる産業廃棄物のリサイクルと資源循環化に取り組んでおります。

当社は「食品ロス」という社会課題の解決をテーマにリサイクル事業を展開してまいりました。「食品ロス」をなくすために一番大切なことは「食品ロスを出さないこと」に他なりません。しかし、食を選ぶ楽しさ、いつでも好きなものを食べることができる世の中を維持する限りは、食品ロスをゼロにすることは不可能です。そうであるなら、出てしまった食品ロスについて、より質の高いリサイクルで再利用を実現していくのが私たちの使命だと考えています。

より付加価値の高い新たなリサイクルを模索する中で、新しい処理方法として、食品ロスから再生可能エネルギーをつくる「バイオガス発電プラント」の建設計画を進めるに至りました。2020年12月にプラントの建設許可が下り、2021年より着工、2023年に本格稼働の予定です。

「バイオガス発電プラント」の実現により、当社のリサイクルに「発電」という新たな価値が加わります。このことは、当社にとって「再生可能エネルギー事業」という新たな分野への挑戦ともなり、同時に2030年に向けたSDGsの目標達成や2050年に向けたカーボンニュートラル宣言に貢献するものと考えております。

食品ロスを資源循環させる 未来をめざして

「循環型社会」の実現をめざす企業として、私たちは「都市部での有機性廃棄物の資源循環」という未来を描いています。都市部で出た食品ロスを自社の都市型施設でバイオマス資源化してリサイクルする。そしてその先には、そのバイオマス肥料で農業を行うなど、自社内で資源循環をループさせていく未来があるかも知れません。

また、当社ではフードバンクへの活動支援や、子どもたちへの環境学習への支援、啓蒙活動といった取り組みも大切にしており、建設予定の「バイオマスガス発電プラント」においても、再生可能エネルギーについて学べる身近な施設として近郊の教育機関などとも協業を行っていく予定です。

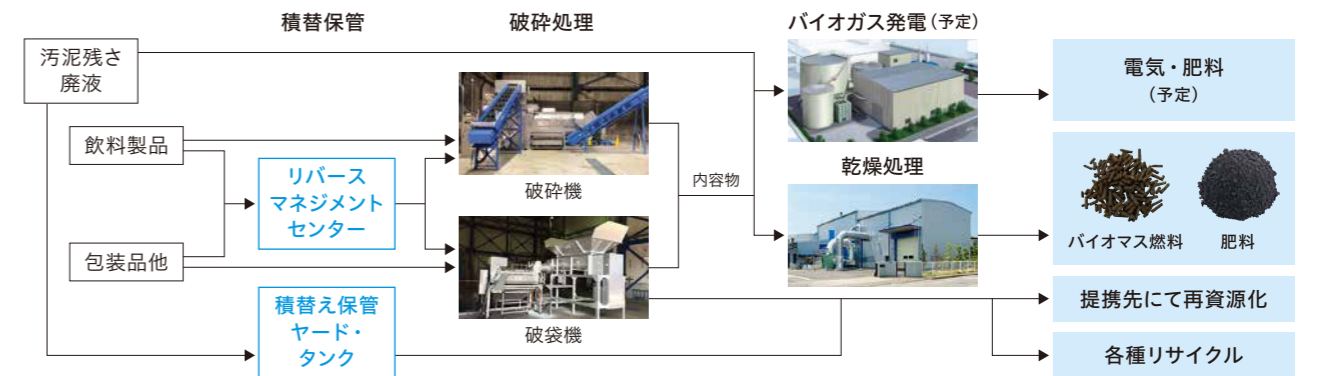
今期は、新型コロナウイルス感染症の流行拡大の影響を受けながらも、未来の循環型社会に向けたさらなる一歩を踏み出すことができました。

今後は、当面は「バイオガス発電プラント」の100%稼働をめざすことが目標となりますが、「有機性バイオマスの資源化事業」「食品リサイクル事業」「アライアンスネットワーク事業」「再生可能エネルギー事業」という当社のリサイクル事業で産業廃棄物の資源循環を追求し、循環型社会の実現に貢献してまいります。

事業を通じて
取り組むSDGs



リヴァックスのリサイクルシステム



Topics

京阪神エリアで最大級のバイオガス発電プラントを計画 ～食品ロスなどから再生可能エネルギーを創る～

バイオガス発電とは、微生物発酵にて食品ロスなどの有機性廃棄物よりバイオガスを生成し、ガスエンジン式発電機によって発電を行うものです。本プラントでは、阪神間を中心とした近畿圏の産業廃棄物約70t/日を原料に電気をつくり出します。2022年7月より原料投入を開始し、2023年1月からの本稼働を計画しています。

都市近郊での大規模バイオガス発電プラントは珍しく、京阪神では最大規模の試みとなります。排出事業者の利便性、運搬コスト低減に貢献させていただくと同時に、食品リサイクルや再生可能エネルギーを身近に感じていただける施設として行政やNPO、教育機関、環境関連企業とさまざまな協業を行う予定です。



事業責任者インタビュー

取締役処理センター長
児島 毅

SDGsの目標達成と 脱炭素社会に貢献します

SDGsや脱炭素に向けて世の中が動いている中で、当社が長年取り取り扱ってきた食品系有機性廃棄物で再生可能エネルギーの一端を担えることを嬉しく感じています。

当社の取り扱う有機性廃棄物を当社グループ敷地という限られたスペースでどれだけ有効に発電できるかを、成分分析やサンプルテストからのシミュレーションを何度も行い、メーカー選定から現在の計画にたどりつくまでに時間をかけて検討しました。

バイオガス発電は、成分のばらつきがある廃棄物原料を微生物で発酵させるので、いかに状態安定させるかが課題となります。建設工事の期間も利用して、想定される原料の情報をより多く集めることで、負荷変動のシミュレーションを積み上げていきます。

また、発酵残さとして発生する消化液の有効利用は今後の課題です。現状、消化液は脱水した後、濾液は曝気処理し公共下水道へ放流し、脱水ケーキは肥料原料として利用する計画ですが、消化液のまま利用できれば無駄なエネルギーを使うことなく環境負荷の少ない利用が可能になります。

近い将来の5年後には、新プラントは稼働4年目を迎えるしっかりと軌道に乗っているでしょう。2030年目前で、SDGsの目標達成に貢献していると考えます。さらにこのノウハウを活かし、脱炭素社会に貢献できると考えています。

産業廃棄物の総合リサイクル事業

有機性廃棄物のバイオマス事業

有機性廃棄物を バイオマス資源としてリサイクル

事業所から排出される活性汚泥や動植物性残さなどの有機性廃棄物については、自社プラントで乾燥処理を行い、バイオマス燃料や肥料といったバイオマス資源へと100%リサイクルを実現しています。

食品リサイクル事業

食品廃棄物 100%リサイクルをめざす

期限切れや製造ロスによって生じた飲料製品や梱包された食品系産業廃棄物を、破碎処理と乾燥処理によりバイオマス資源へとリサイクルします。飲料系廃棄商品は、容器と内容液の100%リサイクルを実現しています。

アライアンスネットワーク事業

あらゆるリサイクルに ワンストップで対応

産業廃棄物は業者によって扱う廃棄物が異なりますが、当社はあらゆる廃棄物にワンストップで対応。長年培ってきたノウハウと提携業者などのネットワークを駆使して廃棄物に合わせた最適な処理方法を提案します。

設備清掃事業

swell事業

工場内インフラに特化した清掃サービス

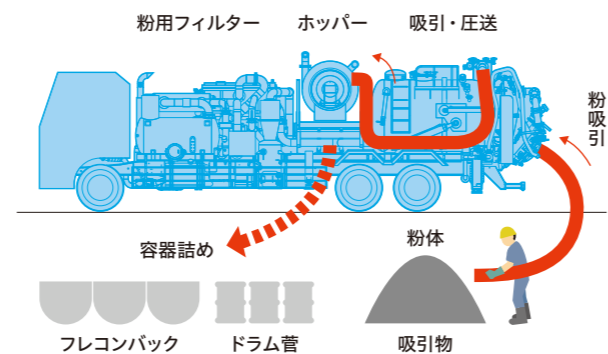
swell事業は、2018年に「廃棄物処理だけでなく工場の清掃までトータルに依頼したい」という顧客ニーズから生まれた事業で「工場内設備に特化した清掃サービス」を提供しています。顧客ニーズの中でも「特に技術的に難しく未だ実現されていない課題に高い技術力でお応えすること」、そして「顧客の現場に合ったよりよい清掃サービスを企画提案し、コスト面、効率面での改善に貢献すること」を強みに事業展開しています。技術力と提案力で、工場の環境インフラの機能維持に貢献します。

超強力吸引車であらゆる清掃を可能に

国内最大級の超強力吸引車など特殊車両を保有しており、その圧倒的な性能で清掃作業時間の短縮や作業内容の改善を実現しています。「深い地下からの吸引」「レンガ屑など大きな塊の吸引」などこれまで不可能であった作業が可能になり、あらゆる現場のニーズにお応えします。

新車両マルチ吸引車を導入

マルチ吸引車は、粉体専用の特殊車両です。これまで複数台で対応していた、粉体の「吸引・圧送」「容器詰め」「粉体輸送」といった3つの作業を一台で行うことができる、まさに一台三役の車両で、作業の手間と時間を大きく削減します。2020年度は展示会など営業活動を開始、2021年度より導入となります。



環境負荷低減の取り組み

産業廃棄物のリサイクル率

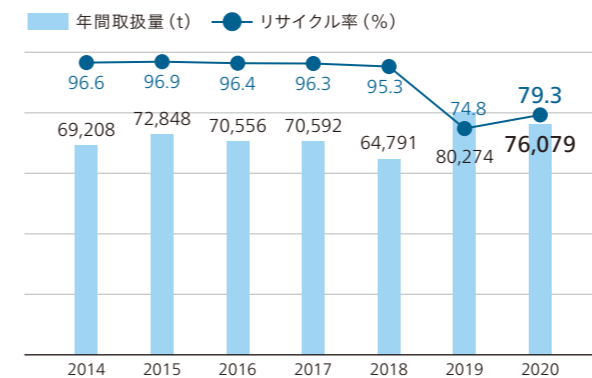
より質の高いリサイクルをめざしています

2020年度のリサイクル率は79.3%でした。以前は焼却されていた廃棄物のリサイクル先を新たに開拓できたことなどにより、前年度より増加しました。

引き続き、お客様のリサイクルニーズへの対応、循環型社会の実現、埋め立て処分地の延命に貢献してまいります。

※リサイクル率は年間取扱量のうちリサイクル処理への仕向量の占める割合を表します。
※2018年度まではサーマルリサイクル(焼却)をリサイクル扱いとしていましたが、2019年度よりリサイクルカウントから除外しています。

リヴァックスの産業廃棄物の年間取扱量とリサイクル率



※過去データに誤りがあったため、修正しております。

リヴァックスの対応可能な廃棄物処理

汚泥・残渣・ 廃液の 乾燥処理	阪神間最大級の リサイクルプラント	▶	100t/日
	安定した稼働実績	▶	36,000t/年
食品などの 容器包装の 破碎処理	1日の処理量	▶	43t/日(内容量含む)
	多種類の許可	▶	3種
	・廃プラスチック類 ・金属くず ・ガラスくず、コンクリートくず、陶磁器くず		
廃棄飲料の 処理	飲料処理実績 日本最大クラス	▶	8,000t/年
	保有容量	▶	585m ³ 食品リサイクル法に対応

悪臭防止対策

各種対策で、 規制値を厳守しています

破碎・積替保管棟には、活性炭式の脱臭装置を5箇所設置、汚泥や動物性残さの保管ヤードにはシャッターを取り付け、廃棄物の搬入出以外には閉鎖しています。乾燥施設から発生する高濃度臭気はバイオマスボイラーの燃焼室内で燃焼脱臭を行い、低濃度臭気には臭気を薬剤で中和脱臭させる薬液洗浄装置を設置しています。西宮市との環境保全協定に基づく臭気測定の結果は、2020年度もすべて規制値内でした。(P20参照)

水質汚濁防止対策

定期的に水質を分析、 適正管理しています

廃棄物処理工程において発生する排水は、全量を排水処理施設で処理した後下水道へ放流しています。連続監視式のpH計を設置し、排水処理施設の水質を定期的に分析しています。法律より厳しい自主基準値を設定し、月1回の管轄行政による排水水質検査に合わせた自主検査を実施するなど、未然防止に努めています。(P20参照)

廃棄物の漏洩・流出防止対策

漏洩・流出防止を 徹底しています

リバース・マネジメントセンターでは、容器入り廃棄飲料の荷崩れや開梱作業などで飲料がこぼれた場合でも漏洩しないよう、倉庫外周に側溝および8m²の溜め枡を設けています。さらに、含水率の高い廃棄物を収集運搬する際には漏洩防止のためゴムパッキン付き水密コンテナを使用しています。

処理センターのエネルギー使用量

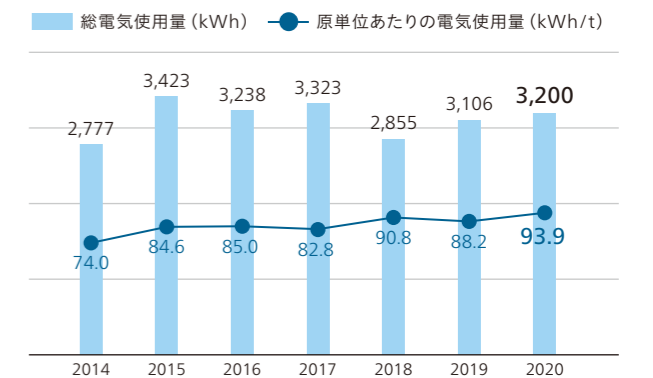
省エネルギー対策に努めています

リヴァックスの処理センター(破碎・乾燥施設)では、電気・都市ガスのエネルギーを使用しています。2020年度は、原料の性状均一化を目的とした廃液受入ピットの攪拌ブロウ増設により電気使用量は3,199,896kWhと増加しました。

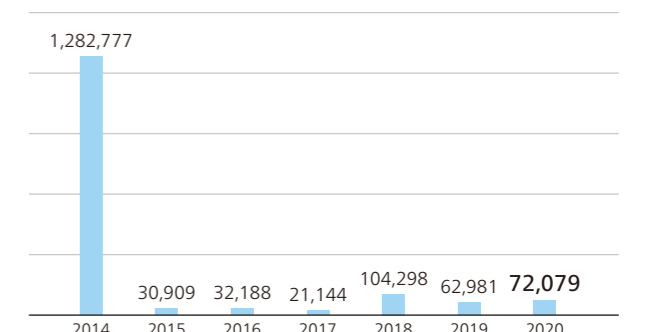
また、木質チップボイラーのメンテナンスにより、前年より数日多く都市ガスボイラーを使用したことで、都市ガス使用量も増加しています。

今後もプラント安定稼働を維持しながらエネルギーの削減に努めてまいります。

処理センターの電気使用量

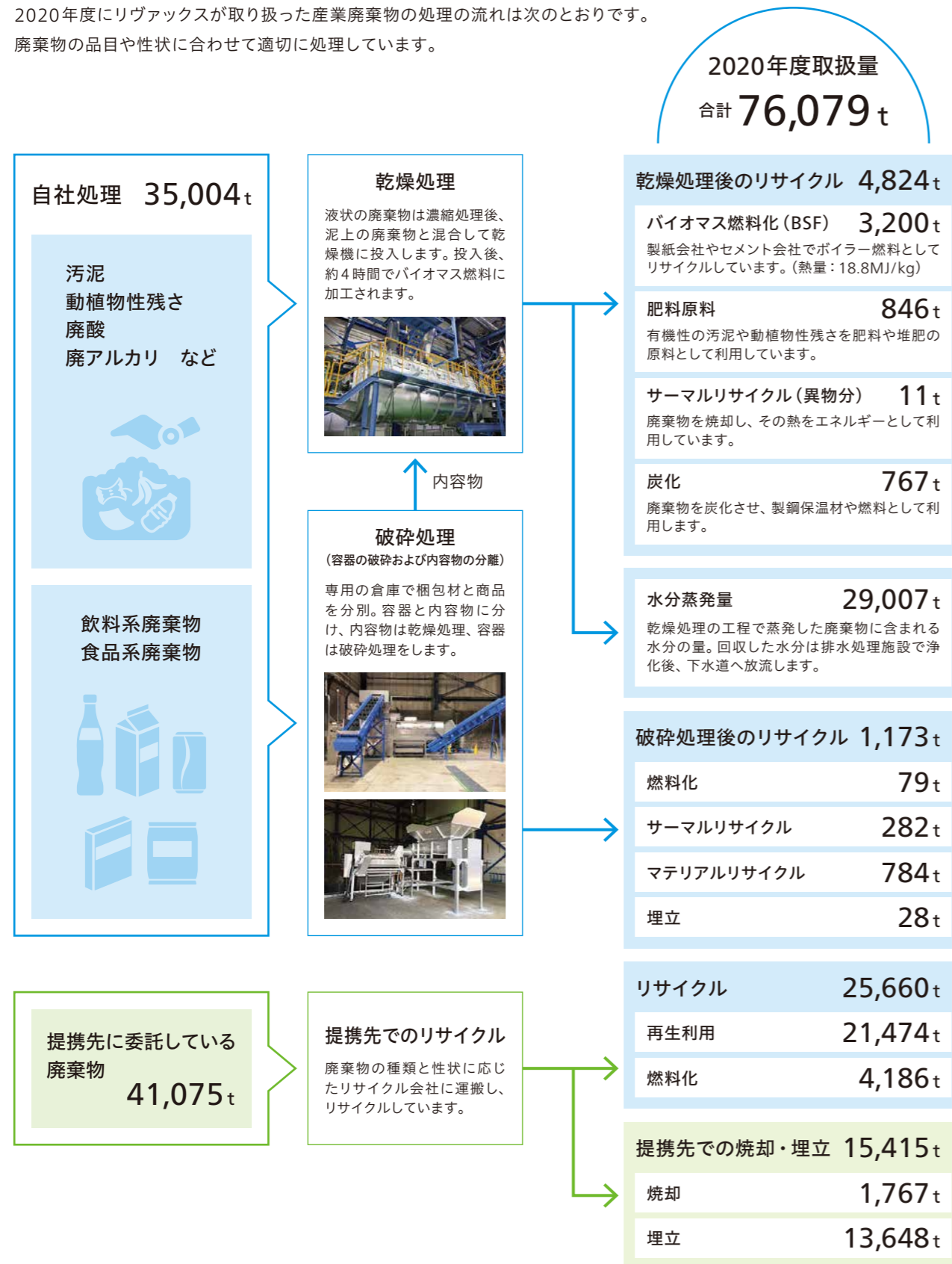


処理センターの都市ガス使用量 (m³)



産業廃棄物処理フロー

2020年度にリヴァックスが取り扱った産業廃棄物の処理の流れは次のとおりです。
廃棄物の品目や性状に合わせて適切に処理しています。



環境測定結果

臭気測定結果

悪臭物質名	規制基準	単位	東側	西側	北側	南側
アンモニア	1	ppm	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
メチルメルカプタン	0.002	ppm	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
硫化水素	0.02	ppm	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
硫化メチル	0.01	ppm	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
二硫化メチル	0.009	ppm	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
トリメチルアミン	0.005	ppm	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008
アセトアルデヒド	0.05	ppm	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004
プロピオンアルデヒド	0.05	ppm	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004
ノルマルブチルアルデヒド	0.009	ppm	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008
イソブチルアルデヒド	0.02	ppm	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
ノルマルペンチルアルデヒド	0.009	ppm	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008
イソペンチルアルデヒド	0.003	ppm	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004
イソブタノール	0.9	ppm	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
酢酸エチル	3	ppm	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1
メチルイソブチルケトン	1	ppm	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
トルエン	10	ppm	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5
スチレン	0.4	ppm	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
キシレン	1	ppm	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
プロピオン酸	0.03	ppm	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
ノルマル酪酸	0.001	ppm	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
ノルマル吉草酸	0.0009	ppm	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
イソ吉草酸	0.001	ppm	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
臭気濃度(敷地境界)	30	—	<10	<10	<10	<10

大気汚染物質測定結果 (2020年10月21日、2021年3月9日実施)

測定項目	規制基準	単位	1回目	2回目	
窒素酸化物(NOx)	排出基準	350	ppm	46	66
	時間あたり排出量	0.53	㎎N	0.31	0.34
	年間排出量	8.5	t	5.1	5.5
硫化酸化物(SOx)	排出基準	—	ppm	<1	<1
	K値規制	1.4	㎎N	<0.01	0.0082
	総量規制	0.38	㎎N	<0.01	0.0082
ばいじん	排出基準	0.2	g/㎎N	<0.001	<0.001

重金属などの水質検査結果 (2020年5月19日実施)

測定項目	単位	規制基準	本社	サテライト
水温	℃	45以下	24.3	20.7
pH	—	5.0~9.0	7.2	6.5
カドミウム	mg/l	0.03以下	<0.003	<0.003
シアン	mg/l	0.3以下	<0.1	<0.1
鉛	mg/l	0.1以下	<0.01	<0.01
六価クロム	mg/l	0.1以下	<0.02	<0.02
ひ素	mg/l	0.05以下	<0.01	<0.01
総水銀	mg/l	0.005以下	<0.0005	<0.0005
総クロム	mg/l	2以下	<0.02	<0.02
銅	mg/l	3以下	<0.1	<0.1
亜鉛	mg/l	2以下	0.06	0.08
溶解性鉄	mg/l	10以下	<1	<1
溶解性マンガン	mg/l	10以下	<0.1	<0.1

水質測定結果

測定項目	規制基準	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
水温	—	18	23	27	27	31	32	27	23	19	14	15	16
pH	5.5~8.6	6.0	7.4	7.7	7.6	6.1	7.6	7.2	7.8	7.1	7.1	7.3	7.4
BOD	500mg/l以下	84	1.4	1.7	7	1.0	<0.5	8	0.8	1.2	14	0.6	0.7
SS	300mg/l以下	161	1	3	4	<1	2	4	4	1	2	2	<1

事業を通じて
取り組むSDGs



株式会社リリーフ

「おかたづけ事業」と「海外リユース事業」 2つの事業で「循環型社会」をめざす

株式会社リリーフは2011年、高齢化社会を背景とした社会課題に 대응べく「おかたづけ事業」をスタートさせました。さらに、「おかたづけ事業」で回収した不用品を循環させる仕組みを「海外リユース事業」として構築、地球環境保全も配慮、貢献したビジネスを行っています。



代表取締役社長 赤澤 健一

高齢化社会の課題解決をめざして 立ち上げた「おかたづけ事業」

当社が「おかたづけ事業」をスタートさせたのは、2011年のことです。2008年、2009年頃から少子高齢化を背景に独居老人の孤独死が社会問題化し、地方自治体や個人のお客様からの相談が増えました。当時は「おかたづけ」は社会的評価の低い事業で、料金やサービス内容も不明瞭な業界でした。事業参入には検討を要しましたが、「誰に頼めばいいかわからない」「不当な高額請求をされた」といった声を多く聞き、「困っておられる方が多くいるにもかかわらずそれに適切なサービスがない」状況に対して、そのようなニーズに応えさらに「おかたづけ」をサービスとして社会化していこうとすることをテーマに、株式会社大栄の一事業部として始めました。



料金とサービスの明朗化で 「業界の健全化」を実現

「業界の健全化」をめざしてまず当社が行ったことは、「おかたづけ」の料金とサービス内容を明確にし、世の中に提示するという事です。料金をホームページで「見える化」し、「追加料金は一切いただかない」とすることで、お客様が当社の料金を「業界の価格基準」として把握し、容易にサービスの比較ができるよう環境を整えました。そして、お見積りから実際の作業までを同じスタッフが担当することでお客様とコミュニケーションを密にし、お客様に安心してご利用いただけるサービス体制を構築しました。



不用品回収からリユースへ。「循環型社会」に貢献

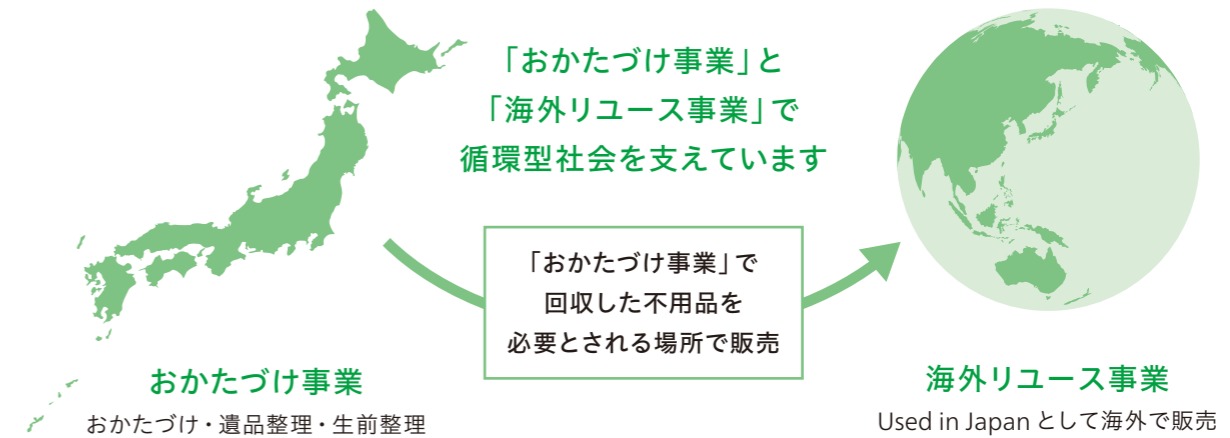
当社の「おかたづけ事業」の最大の特徴は、「自社内にリユースの仕組みを持つ」ということです。「おかたづけ」で回収した不用品の中にはまだまだ使えるものが多くあります。それらを処分してしまうのではなくリユースして再利用する仕組みが必要だと考え、「おかたづけ事業」と両輪で取り組んでいるのが「海外リユース事業」です。

当社は「おかたづけ事業」のスタート時より、回収した不用品の出口を探っていました。処分するのではなくリユースして活かすことはできないか。その仕組みの構築には時間がかかりましたが、その過程でアジアでは日本の中古品が「Used in Japan」として人気があることがわかりました。早速、現地調査を行い、カンボジアの企業と共同

事業で2013年から「海外リユース事業」をスタートさせることができました。

「おかたづけ」で回収した不用品を海外で「Used in Japan」として再利用する仕組みは、循環型社会に貢献できるだけでなく、お客様にとっては処理費用の軽減にもなります。

現在までに、東南アジアを中心に10か国以上の現地リサイクルショップに届けてまいりましたが、重要なのは「必要な品を必要な場所に届ける」ということです。私たちの経営理念でもある「五方よし」を実現するため、本当に必要とされる品をしっかりと現地調査したうえで届けています。



海外のリサイクルショップに並ぶ「Used in Japan」。コンテナが到着すると人が殺到するほどの人気です



必要な場所に必要品を届けるため、現地調査でニーズをリサーチしています

「おかたづけ」の事業価値を向上、より社会に認知される事業へ

当社は「おかたづけ業界」の社会的認知度を上げるべく体制を整えましたが、数年前から始まった「終活」ブームでいよいよ「おかたづけ」が事業として世の中に認知されることとなりました。

また、当社は遺品整理を通して生前整理の必要性を感じていたことから、不動産業界や金融業界、葬儀社などと提携し「生前整理セミナー」を開催し、啓蒙活動にも力を入れてきました。このことは「遺品整理から生前整理へ」と、さらなる顧客ニーズを開拓するとともに、「おかたづけ」をより生活に身近なサービスとして周知することとなりました。

昨今のコロナ禍の自粛期間中に「おかたづけ」がブームとなった背景もあり、現在では「おかたづけ」を業者に依頼することは一般的になったといえるのではないのでしょうか。この10年で「おかたづけ業界」は大きく成長したと感じています。



認知度向上をめざし、テレビCMを展開しました

「選ばれる企業」として、さらなる成長をめざす

2020年度の相談件数は4300件、2019年度は3000件と、相談件数は毎年、前年比125%以上というペースで伸び続けています。コロナ禍においても、相談件数を伸ばすことができたのは、業界の認知度とともに当社の認知度も上がり、当社のサービス内容や事業への姿勢がお客様に選んでいただけたと自負しております。また、不動産会社を中心に提携事業者数が大きく増えたことも、相談件数が伸びている理由です。

今年度は新しい取り組みとして「コールセンター部門」を見直しました。対面が難しい状況でもお客様とのコミュニケーションの機会を増やし、よりスムーズに安心できるサービスの提供をめざします。

認知度の向上については、今年度からテレビCMやインターネット広告などにも取り組んでおります。

10年前に社会課題解決をテーマにスタートした事業が、ようやく社会に認知されるようになり、ひとつの業界

として確立することができました。今後は、成熟した市場の中で「選ばれる企業」として、よりお客様に求められるサービスの充実とエリアの拡大、都市部の強化などに取り組んでいく方針です。



Topics

フランチャイズ 加盟店の声

当社は現在、関西圏をはじめ東京、名古屋の3拠点を中心に事業を行っています。2015年からはフランチャイズ方式で店舗を増やし、2021年3月末時点で全国17店舗を展開。フランチャイズ加盟店で神戸三宮店・店長の笠松雅樹さんと弥央さんに話を聞きました。

リサイクル&リユースの視点で 「おかたづけ」ができること それがリリーフの仕事の 一番の魅力です

リリーフ 神戸三宮店
店長
笠松 雅樹 さん
笠松 弥央 さん



リリーフのフランチャイズに加盟されたのはなぜですか。

雅樹さん 2年前、仕事を探していたときに現在の共同経営者から、これからはおかたづけ業界が伸びると聞いたのがきっかけです。情報収集するほどにこの業界の成長性を知りました。共同経営者と一緒に「おかたづけ事業」を始めることになり、一から立ち上げるよりもフランチャイズの方が安心だということで、業界最大手のリリーフのフランチャイズに加盟しました。

「おかたづけ」の仕事を実際にされてみていかがですか。

雅樹さん 遺品整理だけだと思っていたのですが、施設に入居する前のおかたづけなど、いろんなニーズがあります。お客様のお宅にお見積りに伺っておかたづけの作業を行います。この仕事は仕事のたびにお客様との信頼関係を築くことができる「いい仕事」だと感じています。妻もバイト感覚で手伝っていたはずなのに、どっぷりハマってしまいました。

弥央さん 本当に、大好きな仕事です(笑)。ごみをいかに減らすかに命をかけています。最初は大量に出ていたごみも、リサイクルについて勉強して今では随分少なくなってきました。処分するのではなく、リサイクルやリユースしていかうという考え方は、お客様にとっても喜ばれています。

雅樹さん そうですね。リリーフには自社内で不用品を再利用する環境が整っているので、私たちも分別にもより力が入ります。

お仕事はいつもお二人でされているのですか。

雅樹さん 見積りから作業まで、ずっと夫婦一緒に仕事をしています。お客様にとってはめずらしいようで、「そういう働き方もあるんですね」と関心を持っていただけます。お客様のお宅に入る仕事なので、夫婦でいることで安心していただけているということはメリットかもしれません。

「おかたづけ」の仕事のやりがいは?

雅樹さん お客様とのコミュニケーションですね。「ありがとう」と心からの感謝の言葉をかけてくださったり、信頼して任せくださるのが嬉しいです。

弥央さん 私も、お客様が喜んでくださることがやりがいです。おかたづけの作業中に鍵や貴重品、現金などを見つけて差し上げると「探していたの!」と喜ばれることも多いです。意外なところから大事なものが出てくるので、気をつけて細かくチェックしながら作業しています。

将来の目標はありますか。

雅樹さん もっとリサイクルやリユースに関する知識を身につけて、できるだけ現場でのごみを減らしていきたいと思っています。環境保全につなげるとともに、処理費用を軽減することでお客様にも喜んでもらいたいです。

弥央さん 事業が大きくなればスタッフも増えていくと思いますが、私自身、この仕事が本当に大好きなので、将来も体が動く限り、自分たちで現場の仕事をやりたいです。

ありがとうございました。

事業を通じて
取り組むSDGs



株式会社ダイキョウクリーン

地球環境保全に貢献し、社会に求められるビジネスへ

株式会社ダイキョウクリーンは、業務用厨房に設置されているグリストラップ（油脂分離阻集器）、ビルや施設の排水管、貯水槽などの清掃事業を行なっています。飲食業界のインフラを支える企業として、地球環境負荷の低減と衛生保全に貢献しています。



代表取締役社長 津田 政房

顧客の業務環境と 地球環境保全に貢献する

当社は、飲食業界のグリストラップ清掃事業、ビルや施設の排水管、貯水槽などの清掃事業を行なっています。グリストラップとは「油脂分離阻集器」のことで、業務用の厨房から出た汚水の中から野菜くずや残飯を金網状のバスケットで集め、グリース（油）が下水に流出するのをトラップする（止める）装置です。飲食店では油を含む汚水が配管設備を傷めないよう油分の分離処理が義務付けられていますが、グリストラップは水に油を浮かせることで油分を分離し、下水に油が流出することを防ぐ役割があります。そして、水に浮いてたまった油は定期的な清掃が必要で、怠ると悪臭や害虫の発生の原因になります。

当社は、グリストラップの清掃から油分の分離処理まで一貫して対応しており、さらに排水管清掃や貯水槽清掃も行なっています。顧客の業務環境をトータルにサポートすることで、地球環境負荷の低減と衛生保全に貢献しています。



強固な組織基盤を 事業力強化につなげる

2020年度は、当社にとって大きく外部環境が変化した年でした。新型コロナウイルス感染症の流行拡大は、飲食業界に甚大な影響をもたらし、当社のグリストラップ清掃事業も一時ストップする事態となりました。しかしこのような状況下においても顧客から選ばれ、継続して仕事の依頼をいただけたことは、当社にとって大きな自信にもなりました。

当社は2010年の創業以来、10年以上にわたって市場拡大を推し進めてまいりましたが、今期は歩調を緩め、足元を見直す良い機会となったと捉えております。

来期以降は、これまで通り飲食業界のインフラとして市場拡大を続けながらも、再度市場のニーズを見直し、新規市場にも積極的に参入していきます。病院や大型ショッピングモール、物販店などあらゆる店舗・商業施設の排水管・貯水槽清掃事業についても強化していく計画です。

また、今期は社員一同、自社の企業価値を再認識し、今後どう高めていくかの意識共有を行うことができました。当社は企業として「顧客や社会に貢献できる企業であること」が存在意義であると考えていますが、そのためには働く人にとっても良い企業でなければなりません。社員が誇りをもって働ける企業であるために、強固な組織基盤を新たな強みとして、来期以降の事業力強化につなげていきたいと考えています。

ダイキョウクリーンが選ばれる5つの理由

2020年度は新型コロナウイルス感染症の流行拡大で、飲食業界は甚大な影響を受けました。このような状況下においても、多くのクライアントが当社を選び、定期的にグリストラップ清掃や排水管清掃を継続してくださったことは当社にとって大きな励みと自信になりました。今後も、「選ばれる企業」として社会に貢献していきたいと考えています。

理由 1

年間作業実績2万件以上！

年間2万件を超える作業実績を誇ります。豊富な事業実績で積み上げた技術力とノウハウで、あらゆる施設のニーズに対応できることが当社の強み。飲食業界のグリストラップ清掃はもちろん、大型ショッピングモール、空港、病院などの排水管や貯水槽の清掃、補修も行なっています。

理由 2

法令順守による適正処理の徹底

企業は廃棄物を適正に運搬・処理するだけでなく環境保全や環境負荷の低減をも考慮した姿勢が求められています。当社では清掃時に回収した油や食品残さは産業廃棄物としてすべて適正に処理し、業務完了後にそれを証明するマニフェスト伝票を発行しています。リスク管理意識の高い企業に選ばれています。

理由 3

クレーム件数ゼロを追求

2020年度も、クレーム件数ゼロを維持することができました。清掃を手がける従業員はすべて「産廃プロフェッショナル」などの有資格者で、清掃器具の搬入から清掃、マニフェスト伝票の発行、搬出にいたるまで、凡事徹底のもと丁寧な仕事を心がけています。

理由 4

大型複合施設の高層階や地下階にも対応

当社は、対応が難しいとされるビルや大型複合施設の高層階や地下施設の店舗にも対応しています。あらゆるニーズに対応するため、高圧洗浄車をはじめ、各種バキューム車、ポータブル洗浄機材などを揃えており、お客様の要望にきめ細かく応えています。

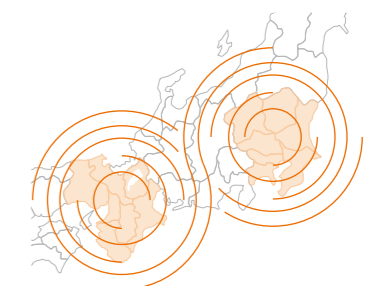


3tバキューム車8台、7tバキューム車2台、高圧洗浄車2台、2t平ボディトラック2台と、多くの作業車両を保有しています

理由 5

全国規模のチェーン店もワンストップ対応

2016年に関東進出を果たし、順調に全国にサービスエリアを拡大させています。現在、関西、関東を拠点に、サービス提供地域は計14都道府県におよびます。事業規模を全国とすることで、全国展開の大手チェーン店にも窓口ひとつで対応できる体制を整えています。



事業を通じて
取り組むSDGs



株式会社大栄

代表取締役社長
木村 裕之



株式会社大協

代表取締役社長
森下 和尚



市民生活を支えるエッセンシャルワーカーとしていかなるときも「事業継続」を使命に

株式会社大栄は西宮市で、株式会社大協は伊丹市で、一般廃棄物収集運搬の許可を受けた適正業者として、家庭ごみ・事業ごみの収集運搬や家庭系粗大ごみの回収業務を手がけています。社会インフラとして「いかなるときも事業を継続する」ことを使命に、地域社会に貢献しています。

非常事態にも事業を止めることなく 社会基盤としての責任を果たす

株式会社大栄・株式会社大協は、それぞれ西宮市と伊丹市で家庭ごみ・事業ごみの収集運搬や家庭系粗大ごみの回収などの業務を行なっています。私たちは日頃より自らの事業を「地域の人々の快適な暮らしを支えるサービス業」と捉え、よりよいサービスの提供をめざしておりますが、昨今の新型コロナウイルス感染症の流行拡大という非常事態において、私たちの事業が「市民生活のためにいかなる状況下においても継続しなければならない社会インフラである」ということを再認識しました。従業員一同、エッセンシャルワーカーとして社会基盤を支える決意を新たにし、その責務を果たすべく、考えられるすべての感染防止対策を行いました。

感染症の流行や自然災害を想定し、 BCP (事業継続計画) の策定と実行に注力

株式会社大栄・株式会社大協は、近年の地球温暖化による自然災害や新型コロナウイルス感染拡大などサービスの遂行を妨げる事案に対してBCP (事業継続計画) の策定と実行に注力しております。

新型コロナウイルス感染症が流行し始めた2020年3月時点からBCPに基づいて感染対策の徹底を図り、業務に携わる従業員の安全確保に努めてまいりました。

具体的には、手洗いとマスクの着用の徹底、業務終了後の車両の消毒のほか、運転手と助手のペアを一定し接触の人数を絞るといった体制の見直しを行いました。また、社内コミュニケーションにおいてもミーティングの回数を減らし、朝礼と終礼は屋外で行うといった工夫をしました。社員一丸となって感染対策に努め、一部業務に影響は出たものの、ごみを確実に収集するという使命を果たすことができました。

BCPの一環として、 「ごみ収集車両運行管理システム」を導入

現在、BCPの一環として「家庭ごみ収集車両運行管理システム」の導入を進めています。環境ビジネスドライバーの仕事は、担当コースのごみステーションの場所や道などについて熟知している必要があり、作業員個人の経験や勘に依存する部分が多い仕事です。このような情報をAIでデータ蓄積してシステム化することで、ドライバーや作業員が未経験のコースでもごみの収集ができるようになり、万が一欠員が出た場合でも業者間やグループ内での応援が可能となります。

すでに伊丹市では「家庭ごみ収集車両運行管理システム」の一部試験導入を行っており、本格導入を目指しております。これにより、会社を超えた協力体制で地域の市民生活を守る体制が整います。また、西宮市でも株式会社大栄が同システムの導入を予定しており、すでに一部コースで試験導入を始めています。

BCPを周到に準備しておくことで、緊急時においても市民サービスを継続できる体制を万全に整えています。

「地域の暮らしを守る」という 誇りをもって事業に取り組む

コロナ禍においては、地域の方々からたくさんのお手紙やお声がけをいただきました。それらは、感染リスクの不安がある中で私たちにとって大きな励みとなりました。直接手渡していただいたお手紙やごみ袋に付けてくださったメッセージカードは、作業員がすべて会社に持ち帰り、オフィスの壁一面に貼って全社員で喜びを共有しております。



私たちの仕事は「当たり前」の仕事ですが、地域の方のあたたかい励ましのおかげで従業員ひとりひとりが自分の仕事がいかに社会にとって重要な仕事であるかを実感させていただけたことに、大変感謝しております。これからも地域の豊かな暮らしを支える社会インフラとして、誇りをもって事業に取り組んでいきたいと考えております。

Topics

「廃棄物計量システム」と「従量課金制」でごみの減量化と地球環境保全に貢献

株式会社大栄、株式会社大協では、ごみを積み込むだけでその重量が計測できるスケールパッカー車と、顧客のごみの量をデータ管理する「廃棄物計量システム」を導入しています。ごみ収集量を見える化し、収集量に応じて料金を課す「従量課金制」を採用することで、顧客のごみの減量への意識向上と処理費用の経費削減に貢献しています。



環境教育や食育の一環として、サツマイモの苗を小学校に贈呈しています

株式会社大協はCSRの観点から地域との結びつきを重視しています。2010年度から毎年、伊丹市内の小学校や特別支援学校、幼稚園などに、サツマイモの苗を寄贈し、栽培を通じて子どもたちの環境教育や食育への貢献を行っています。これは「NPO法人こども環境活動支援協会 (LEAF) が主催し、当社グループも参加している「甲山農地プロジェクト」が落ち葉のたい肥を使って育苗したものです。2020年度は小学校15校、特別支援学校1校、幼稚園8園、保育所6園、こども園3園、の計33施設へ合計2,031苗を寄贈しました。今後も地域のみなさまと連携した活動を展開してまいります。



女性の活躍を推進！女性によるごみ収集チーム「さくらチーム」

2017年に株式会社大栄で発足した、関西初の女性によるごみ収集チーム「さくらチーム」。現在、2台の「さくら号」が西宮市内の家庭ごみを収集しています。「残業がないので家事や子育てとの両立がしやすい」「地域の人とのコミュニケーションが楽しい」「運動にもなるので健康的」とスタッフの定着率も高く、さくらチームの明るさは社内の活気の源でもあります。女性がいきいきと働ける環境を整えることで、地域の美化に貢献できればと考えています。



Topics

現場スタッフの声

地域のみなさんからの「ありがとう」が仕事のやりがいです

株式会社大栄
2020年10月入社
鈴木 吏



私はスポーツが好きで「体を動かす仕事がしたい」と思っていたところ、「さくらチーム」で働いている姉がこの仕事を勧めてくれたのが入社きっかけです。

朝はタイムカードを押して、出社してくる人たちと挨拶を交わしつつ雑談を楽しむところから始まります。ラジオ体操をした後、みんなで車の点検をしていざ出勤です。家庭ごみの回収に街中を走りまわりながら、そこで出会う市民のみなさんとの会話を楽しみに働いています。夕方には仕事を終えますが、毎日「今日も気持ちのいい一日だった!」と感じています。夜は早ければ7時ごろに寝る日もあって、心身ともにものすごく健康的です。

家庭ごみ収集の仕事を始めてみて感じたことは、「この仕事は奥が深い」ということです。先輩方は回収ルートを熟知していてその効率のよさに驚かされます。また、地域の方からごみの分別について質問されることも多いため、ごみの分別やリサイクルの知識も身につけなければなりません。そして、こんなにも「ありがとう」と声をかけてもらえる仕事だということも初めて知りました。「自分の仕事が地域の暮らしの役に立っている」と実感できることが、仕事のやりがいにつながっています。

今、大型自動車免許をとるために教習所に通っています。今後は環境ビジネスドライバーにも挑戦して、廃棄物処理のプロとしてどんな仕事でも任せてもらえるよう知識と経験を積んでいきたいと思っています。

伊丹市民の方々と一緒に、良い街づくりに取り組んでいます

株式会社大協
2005年9月入社
中西 良太



私は、委託事業部の現場責任者をしています。この1年は新型コロナウイルス感染症の流行という未だかつてない状況を経験しましたが、従業員みんなが公私ともに感染対策を忠実に守り、無事、事業を止めることなく過ごせたことに安堵しています。まだ油断はできませんが、この1年でさまざまな対策を重ね習慣化してきたので、これからも日々の健康管理をしっかり行いながら仕事に向き合っていきたいと思っています。

私は、大協に入社して16年目になります。私が入社した当時は、毎朝のように地域の方と挨拶や会話があり、それが日常の風景でしたが、時代とともにそのような機会も減り、個人的には少し寂しく感じていました。しかし、今期はごみ袋に感謝のメッセージをつけてくださったり、街で市民のみなさんが声をかけてくださったりと、自分たちの仕事が「地域に役立っている」と実感できる機会がたくさんありました。私たちの仕事のモチベーションは「市民の方の暮らしに貢献すること」だと改めて感じています。

来期からは伊丹市の「こども110番運動」にも参画します。大協は人が好きなスタッフが多く、小さな子どもがいる人も多いため、社員一同張り切っています。街中を走っている赤と青のパッカー車を「子どもたちの味方」として頼りにしていただければ嬉しいです。これからも、伊丹市民のみなさまと一緒に良い街づくりをしていければと思っています。

株式会社大協
キャリア事業部



エッセンシャルワーカーの育成と雇用に貢献

環境ビジネス業界に特化した人材派遣事業「G career(ジーキャリア)」は、業界の人材不足を解消することをめざし、2017年にスタートしました。環境ビジネスに携わってきた長年の経験を活かし、エッセンシャルワーカーの育成から人材派遣、紹介、請負事業までをサポートしています。



株式会社大協
キャリア事業部長
平井 里美

環境ビジネスに特化した人材派遣・紹介・請負事業

環境ビジネスは社会基盤を支える地域サービスでありながら、深刻な人材不足が課題となっていました。キャリア事業部「G career」は、人材不足という業界が抱える課題の解決を掲げ2017年にスタートしました。事業開始以来、環境ビジネスドライバーから作業スタッフに至るまで安定した数の人材を確保し、派遣先の企業数も年々増加、新事業として着実に成長を続けています。

2020年度は、環境ビジネスドライバーの仕事が「エッセンシャルワーカー」として社会から注目され、「社会性のある仕事」であることはもちろん、社会情勢や景気に左右されない「安定した仕事」とであると広く認知され、新型コロナウイルス感染症の流行の影響を受けた転職者が多く集まりました。

充実した研修体制でコロナ禍での雇用の受け皿に

当社の環境ビジネスドライバー派遣事業の大きな特徴は、「業界未経験者を育成する研修体制」を整えているということです。充実した研修体制により業界未経験者を育成し、即戦力として派遣できることが当社の強みですが、今回のコロナ禍では、この研修体制が他業種からの人材の受け入れを可能とし、コロナ禍の影響を受けた業界からの転職者の受け皿となることができました。

求職者の急激な増加に対応するため、これまで株式会社大協のみで行っていた研修を株式会社大栄でも行い、未経験者受け入れのキャパシティを倍にすることで対応いたしました。

Topics

エッセンシャルワーカーを育成するGcareerの研修カリキュラム

Gcareerでは、ドライバー10日間、助手5日間の研修カリキュラムを用意しております。研修には、直接の業務にかかわる運転技術や安全教育はもちろん、仕事に対する姿勢やマナー研修も取り入れ、環境ビジネス業界と地域社会に貢献する人材の育成をめざしております。



安全教育

法令遵守の徹底、車両点検の重要性など、環境ビジネスドライバーに必須の安全教育を行います。



運転教育

エコドライブ、狭路運転、巻き込みや過積載の危険性、駐車の際の注意点を徹底的に指導します。



実地研修

実際のルートに沿って運転を行い、収集現場にて作業を行います。



カリキュラム研修

当社オリジナルの座学研修を個人のレベルに合わせて段階的に行います。

ESGの取り組み

当社グループは創業以来、地域の暮らしと産業が抱える課題に真摯に応えることを使命に事業を展開してまいりました。また、社会とともに歩む企業グループとして社会的責任を果たすことを心がけております。コーポレート・ガバナンスの強化はもちろんのこと、環境、社会の経営課題に長年にわたって取り組み、一歩ずつ前進してまいりました。今後もこれまで培ってきた経営基盤のもと、社会と産業における新たな課題の解決に向けて注力してまいります。



コーポレート・ガバナンス

P32

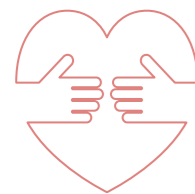
■組織統治 ■法令順守 ■情報開示・説明責任



環境における取り組み

P37

■マテリアルバランス ■活動の目標と実績 ■環境負荷低減の取り組み ■環境パフォーマンスデータ



従業員とともに

P41

■活動の目標と実績 ■労働安全衛生の取り組み ■人事に関する取り組み ■安心して働ける環境づくり



地域社会とともに

P46

■活動の目標と実績 ■お客様とのコミュニケーション ■消費者課題の取り組み ■苦情・事故



コーポレート・ガバナンス

健全で透明性の高い経営に向けた取り組みを強化し、ステークホルダーのみなさまの信頼に応えてまいります



基本的な考え方

グッドホールディングスグループは、法令を順守し健全で透明な企業経営を行うことを基本に、「事業」を通じて優れたサービスを提供することにより、社会の発展に貢献するとともに、ステークホルダーからの期待と信頼に応えることを基本的な考えとしています。

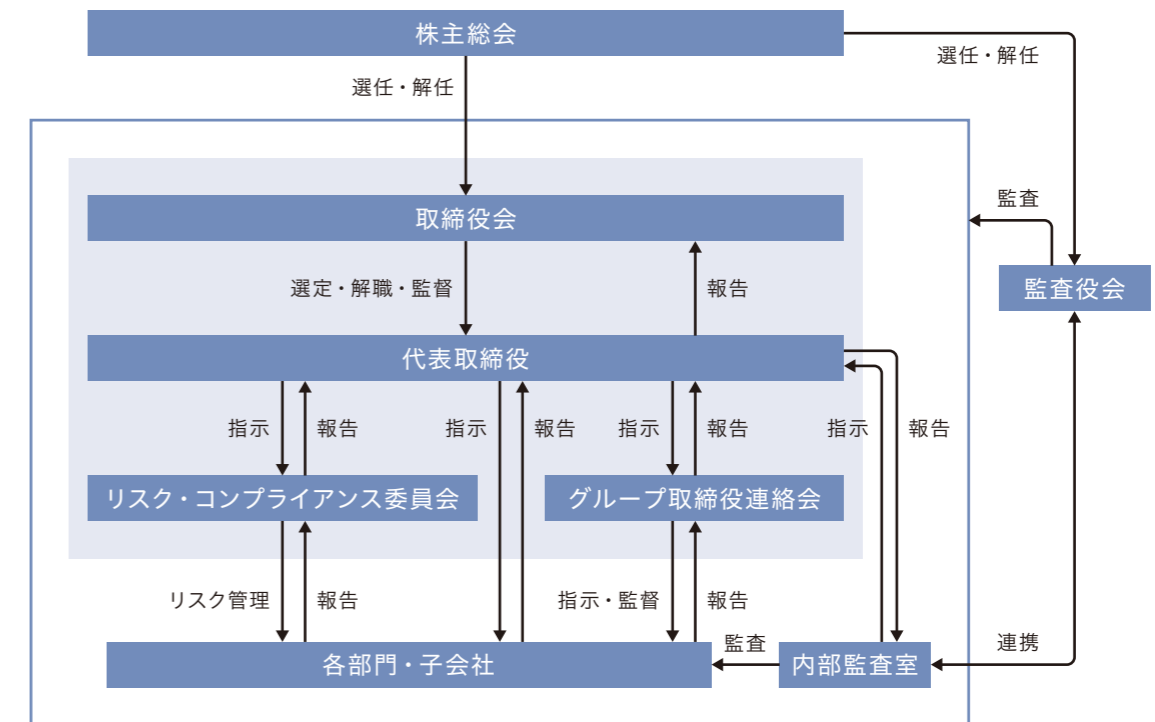
組織統治

経営管理体制

「透明性の確保」「円滑な業務遂行」を重視しています

当社グループは、すべてのステークホルダーから安心・信頼される企業グループであり続けるため、健全で透明性の高い事業および経営に努めています。また、グループ全体の持続的成長および中長期的な企業価値向上をめざし、コーポレート・ガバナンスの構築、強化に努めています。

コーポレート・ガバナンス体系図



その他の会議体

グループ部門責任者会 グループ各社の役職者が集まり、各社の収支実績や活動内容などを報告するとともに、有益な取り組みや問題点などを互いに認識し参考にする事で、自社内の活動の見直しや改善を図るための情報共有の場となっています。

各社事業会議／定例会 会社の方針や課題について協議することで、円滑な業務執行を図っています。

取締役会

経営の重要な意思決定と 取締役の業務執行の監督を行います

当社の取締役会は7名（うち社外取締役1名）により構成されており、経営の重要な意思決定と各取締役の業務執行の監督を行っております。また、独立性の高い社外取締役より、客観的な提言および助言を得ております。

リスク・コンプライアンス委員会

総合的なリスク管理と コンプライアンスの徹底に取り組みます

月に一回開催する当委員会は、グループ代表取締役社長を委員長とし、監査役、各子会社代表取締役社長、取締役および委員長から指名された委員で構成されています。会合では潜在的・顕在的なリスクやコンプライアンス違反などについて協議・検討し、総合的なリスク管理に努めるとともに、研修教育を行い、企業の社会的責任とコンプライアンスの徹底に取り組んでおります。

リスク・コンプライアンス委員会では2020年度において、下記のような議題について報告、協議などを行ってまいりました。

反社会的勢力のチェック	販売先や取引先が反社会的勢力でないかのチェック状況の報告および課題についての協議
労務管理	時間外労働時間の実績（単月、累積）、入退社数の状況、有給休暇の取得状況などの報告および課題についての協議
内部監査報告・改善状況報告	実施した監査内容の報告および改善状況の報告
教育研修	研修の計画および実施 2020年度は新型コロナウイルスの影響もあり、オンライン研修を中心に実施いたしました ・景品表示法について（役職者および該当事業会社の担当部署） ・独占禁止法について（役職者および該当事業会社の担当部署） ・コンプライアンス経営、情報セキュリティ、ハラスメントについて（管理者向け、全従業員向け）
事故報告	各社で発生した事故（車両や設備などでの事故および情報システム障害やセキュリティ事故含む）の概要および防止策などの報告
規定などの制定、改訂	・入札に関するコンプライアンス徹底マニュアルの改訂 ・就業規則の改訂 ・有期契約社員就業規則の制定（アルバイト就業規則の改訂） ・賞金規程の改訂 ・在宅勤務規程の制定 ・育児・介護休業関連規程の改訂 ・定年退職者再雇用規程の改訂 ・慶弔見舞金規程の改訂 ・IT管理規程の改訂 ・情報セキュリティ安全管理規程の改訂
その他	・新型コロナウイルス感染防止対策実践内容の共有 ・新型コロナウイルス感染に対応したBCPマニュアル改訂 ・社員のメンタルケア対策

監査役会

業務執行の監視、監督を行っています

当社の監査役会は、常勤監査役1名、社外監査役2名によって構成し、監査役会規程に基づき原則毎月1回開催し、重要事項について報告、協議、決議を行っております。社外監査役2名は、それぞれ弁護士、公認会計士で、専門的見地と独立した立場から監査を行っております。取締役会のほか、グループ取締役連絡会などの重要な会議に出席し、重要な意思決定の過程および業務の執行状況の把握に努めるとともに、必要に応じて取締役に対して勧告などを行い、是正を求めています。

VOICE



グッドホールディングス 株式会社 常勤監査役 八島 尚志
グッドホールディングス 株式会社 社外監査役 上田 憲
グッドホールディングス 株式会社 社外監査役 南方 得男

監査役は、取締役の業務に対する監視・監督義務を適切に果たすために、当社グループの事業に関する多種多様な情報の中から、有用な情報を入手する必要があります。その有用情報の一つに、例えば事業会社に対する苦情や事故に関する情報があります。お客様や取引先から寄せられた苦情や意見、社員の交通事故・労災事故に関する情報は、一見ネガティブ情報と思われるかも知れませんが、まずはそれを全社的に開示し、問題意識の共有を図ることができているかがガバナンスの第一歩といえます。

当社や社員に落ち度のある苦情や事故であれば、その原因を十分に検討したうえ、関係者への適正な処分を行うとともに、再発防止や信頼回復の対策を講じることが必要かつ重要ですが、このような一連の対応がその都度きちんと取られていれば、リスク管理とコンプライアンスを重視したガバナンスに努めると判断できます。

当社グループは、ESGの取り組みに重点を置いた経営を行っています。監査役としても、たとえ会社にとって耳の痛い不利益な情報であっても、単にその非を責めるのではなく、むしろそれをきっかけとしてガバナンスの強化に繋がるような対応が取られているかどうかを注目しながら、日々の監査業務を行っています。

内部監査部門による監査

内部監査による検討評価、助言・提案、 フォローアップ監査を徹底しています

内部監査室は代表取締役の直轄部署として設置され、当社グループの会計、業務、コンプライアンス、情報システムおよびリスク管理など専門的な知識をもって、効果的な監査を実施できる体制を整えています。内部監査結果については、内部監査報告書として取りまとめ、改善を要する事項が発見された場合には、助言・提案を行うとともに、被監査部門による改善状況をフォローアップ監査により確認しています。

また、内部監査の実施状況はグループ全役員も参加するリスク・コンプライアンス委員会で報告し、委員会メンバーと共有しております。

グループ取締役連絡会

グループ全役員による連絡会で 協議を行います

当社グループ全役員および監査役、内部監査室長で構成され、月に1回開催しております。各子会社からの業績報告や決議事項についての協議を行い、グループ内の共通認識を図る機関として運営しております。

業績報告会

全従業員に業績をオープンにしています

売上高や利益高などを報告する業績報告会を、子会社ごとに毎月1回行っております。この業績報告会では、役職者だけでなく、一般社員やアルバイトなどすべての従業員を対象にしており、全社や各部門の収益状況、その分析などが報告されます。会社の業績をオープンにし、従業員が経営状況を正しく理解することにより、事業運営への参画意識が高まり、経営課題や業務の改善につながっております。

内部通報制度

不正行為の未然防止、早期発見を図っています

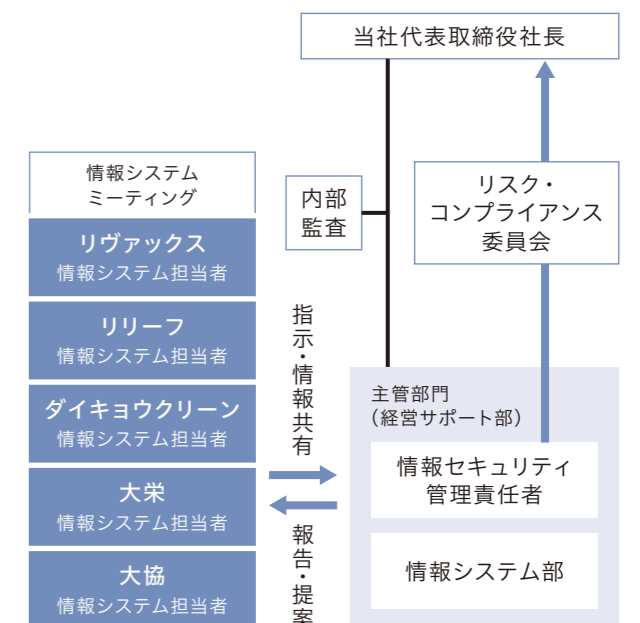
当社グループでは、法令違反、規程違反、社会通念に反する行為などを早期に発見し、不正行為を未然に防ぐとともに必要な改善を図り、コンプライアンス経営の推進を目的として、内部通報・相談窓口（グッドホールディングス・ヘルプライン）を設置しております。通報・相談窓口は、社内と社外の両方に設置し、匿名での通報や組織的な問題に関する通報を行いやすいよう配慮した制度になっております。

情報システムセキュリティ体制

事業活動において取り扱う情報資産の保護を 私たちの責務と捉え、サービスの継続的な提供と 健全な事業の発展に努めています

当社グループの取り扱うさまざまな情報資産に対する、漏洩や改ざん、紛失などのリスクを回避・低減するため、「情報セキュリティ安全管理規程」ならびに「IT管理規程」を定め、情報セキュリティにかかわるリスク管理を行っております。また、規程の管理・運用は各社の情報システム担当者が担い、定期的に行われるミーティングやリスク・コンプライアンス委員会で、組織全体の情報セキュリティ体制を常時見直し、徹底した情報資産の保護・管理に努めております。

情報システムセキュリティ体制



法令順守

法令順守状況

2020年度も重大な違反はありませんでした

グループ各社ごとに順守すべき法令を特定し、その順守に努めています。また、法令で定められた時期に行政へ必要な報告をしているか、法令に則った運用が適正に行われているかなどを、適宜確認しています。

2020年度においても、前年度に引き続き重大な違反はありませんでした。

事業に関する主な法令(抜粋)

法令	名称
廃棄物の処理および清掃に関する法律	廃棄物の処理基準、マニフェスト伝票の交付と管理、委託契約書の締結と管理、収集運搬車両への表示と書面の備え付けなど
大気汚染防止法	NOx、ばいじんなどの排出基準
下水道法	排水の下水道放流基準など
騒音規制法 振動規制法 悪臭防止法	騒音、振動、悪臭基準
道路交通法	走行速度、停車・駐車禁止、過積載の禁止
道路運送車両法	自動車の点検および整備義務
エネルギーの使用の合理化などに関する法律	エネルギーの使用状況報告、管理員の選任など
地球温暖化対策の推進に関する法律	温室効果ガスの算定と報告
労働安全衛生法	安全確保の措置、安全衛生推進者の選任と周知、清掃の実施など
酸素欠乏症など防止規則	濃度測定、保護具・避難用具の常備と点検など
消防法	消防計画の策定、訓練の実施、消防設備の点検など
西宮市との環境保全協定	大気・悪臭などの測定方法や回数など

順守評価の実施

「順守評価記録」を活用し、法改正にも迅速に対応しています

当社グループに適用される法令は法的要求事項として一覧にまとめ、「順守評価記録」で管理しています。この記録に従って、法的要求事項が守られているかを評価するとともに、万一、違反が発見された時は是正処置を行う手順を確立しています。事業にかかわる法改正については、当該記録項目を改訂するとともに、必要な対応とあわせて関連部署に伝達し、社内に展開しています。

法令	法令名称	順守評価項目	評価結果	備考
1	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	マニフェスト伝票の交付と管理	順守	
2	大気汚染防止法	NOx、ばいじんなどの排出基準	順守	
3	下水道法	排水の下水道放流基準	順守	
4	騒音規制法 振動規制法 悪臭防止法	騒音、振動、悪臭基準	順守	
5	道路交通法	走行速度、停車・駐車禁止、過積載の禁止	順守	
6	道路運送車両法	自動車の点検および整備義務	順守	
7	エネルギーの使用の合理化などに関する法律	エネルギーの使用状況報告、管理員の選任	順守	
8	地球温暖化対策の推進に関する法律	温室効果ガスの算定と報告	順守	
9	労働安全衛生法	安全確保の措置、安全衛生推進者の選任と周知、清掃の実施	順守	
10	酸素欠乏症など防止規則	濃度測定、保護具・避難用具の常備と点検	順守	
11	消防法	消防計画の策定、訓練の実施、消防設備の点検	順守	
12	西宮市との環境保全協定	大気・悪臭などの測定方法や回数	順守	

順守評価記録

過積載の防止

お客様の廃棄物重量と車両の最大積載量を毎回照合しています

産業廃棄物の収集運搬を行うグループ会社の株式会社リヴァックスでは、毎回取得しているお客様の廃棄物重量データと車両の最大積載量を照合し、過積載の防止に努めています。積載量を超過した場合は、お客様に報告と一緒に原因を考え、その対策を講じています。

処理前契約締結の徹底

お客様との事前契約締結を徹底しています

産業廃棄物の処理を委託および受託する際には、委託契約の締結が法律により定められています。当社グループでは、契約書の事前締結を徹底し、締結されないまま処理を受託する法律違反を防止しています。とりわけ、産業廃棄物事業を主体とする株式会社リヴァックスでは、取引開始前にお客様情報を登録し、定期的に関係者で締結確認を行うことにより、処理前の契約締結に努めています。

情報開示・説明責任

サステナビリティレポートの発行

事業活動だけでなく、社会や環境への取り組みをお伝えするコミュニケーションツールとして、毎年発行しています

廃棄物処理事業そのものや、当社グループの取り組みを広く知っていただきたいの思いで、株式会社リヴァックスは2002年から、株式会社大栄および株式会社大協は2008年から報告書を発行してまいりました。2015年からはホールディングス体制への移行を機にグループ統括で毎年発行しております。

昨年発行の「サステナビリティレポート2020」においても、昨年に引き続き環境コミュニケーション大賞において優良賞を受賞いたしました。今後もステークホルダーの皆さまと私たちを結ぶ重要なコミュニケーションツールとして、引き続きその充実に努めてまいります。



皆さまと私たちを結ぶ重要なコミュニケーションツールとして、引き続きその充実に努めてまいります。



産廃情報ネットでの情報開示

優良産廃処理業者認定制度に沿って情報を公開しています

2011年度に産廃処理業者優良性評価制度が大幅に改定され、新たに「優良産廃処理業者認定制度※」が創設されました。各社で兵庫県や大阪府をはじめ、複数の自治体の適合認定を受けています。同制度の事業の透明性に係る基準に沿って、当社グループの許可内容や財務諸表などの情報を、公益財団法人産業廃棄物処理事業振興財団が運営する「産廃情報ネット」に公開しています。

※優良産廃処理業者認定制度：5つの基準 ①実績と遵法性 ②事業の透明性 ③環境配慮の取り組み ④電子マニフェスト ⑤財務体質の健全性)すべてに適合する優良な産廃処理業者を都道府県・政令市が認定する制度。

【産廃情報ネット】 <http://www.sanpainet.or.jp/>

メールニュース・Webでの開示

活動報告、活動状況などを掲示・メール配信しています

毎月、各社の最新の活動報告やセーリングチームの活動状況などをWebサイト (<https://www.goodhd.co.jp/>) にて掲載しております。また、各社が自社の活動報告やイベント告知をお知らせするほかに、グループ共通で展示会・セミナーの案内などをメールニュースにて配信しています。これ以外にも月1回、リヴァックスでは「廃棄物・リサイクル関連法の最新情報」として、法改正の状況や行政が主催する案内を配信しています。



Webサイト



メールニュース



環境における取り組み

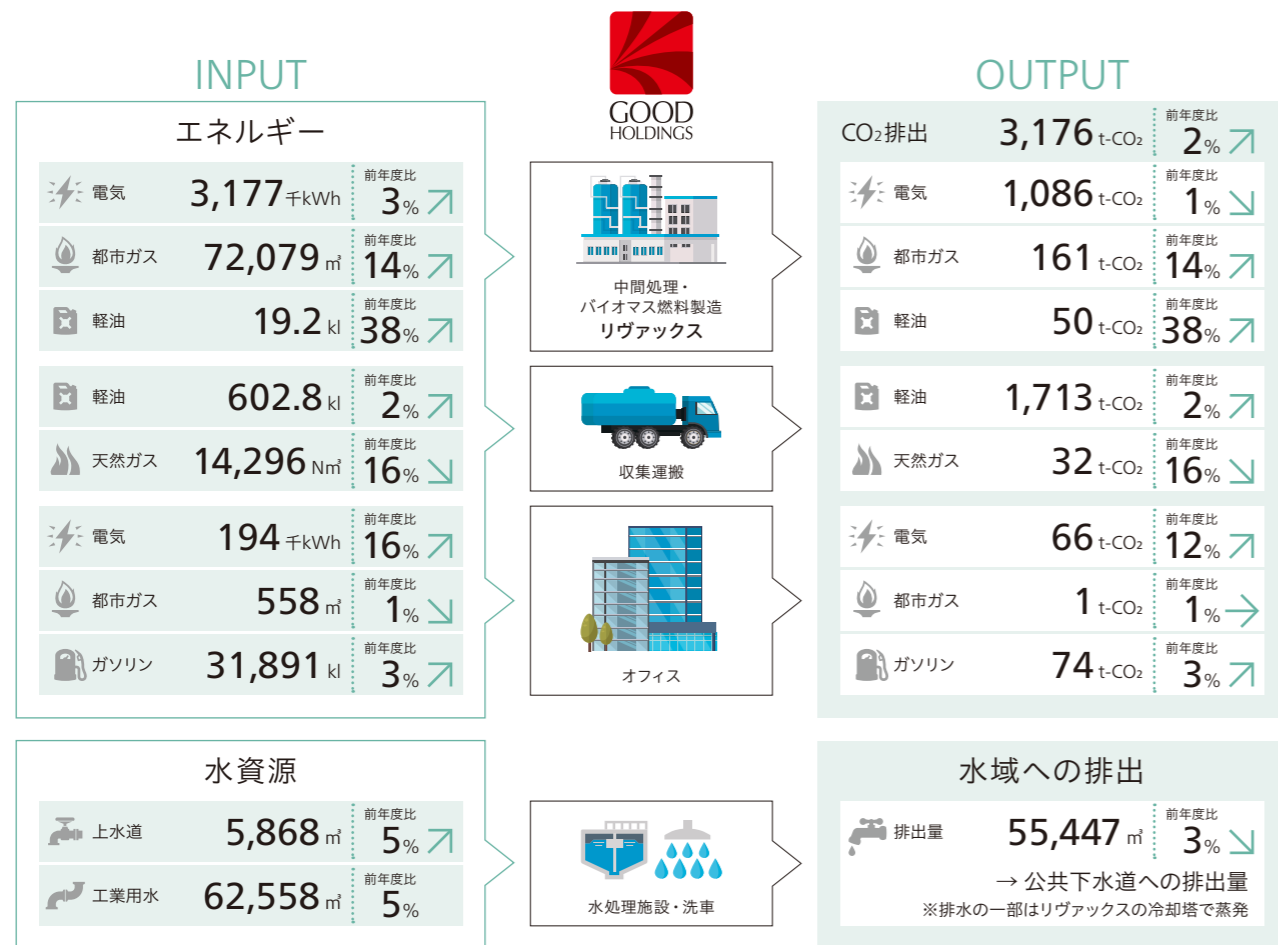
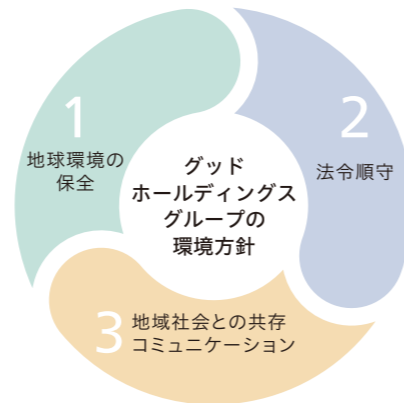
全グループを挙げて、事業活動における環境負荷の低減に努めています



基本的な考え方 地球環境を守り、社会の持続的な発展に貢献していくことは私たちの責務です。グッドホールディングスグループは、地球環境の保全、法令順守などへの取り組みを継続し、事業環境にともなう環境負荷の低減などに努めています。

マテリアルバランス

2020年度における事業活動に必要な資源・エネルギーなどの投入量 (INPUT) と二酸化炭素 (CO₂) などの環境への排出量 (OUTPUT) は次のとおりです。INPUTとOUTPUTを把握したうえで、資源の有効活用および環境負荷の低減に取り組んでいます。



二酸化炭素 (CO₂) の排出係数 参考データ (環境省) | 供給された電気 (関西電力) 0.000340t-CO₂/kWh | 天然ガス (単位発熱量) 43.5GJ/千Nm³ (排出係数) 0.00222tC/GJ
 軽油 (単位発熱量) 37.7GJ/kl (排出係数) 0.00258tC/GJ | ガソリン (単位発熱量) 34.6GJ/kl (排出係数) 0.00232tC/GJ
 都市ガス (単位発熱量) 44.8GJ/千Nm³ (排出係数) 0.00223tC/GJ

活動の目標と実績

活動企業	2020年度目標	2020年度実績	結果	2021年度目標
リヴァックス				
処理・運搬におけるエネルギー使用量削減 (原単位あたり)	電気: 89.72kWh/t以下 燃費: 3.86km/ℓ以上	93.93kWh/t 3.81km/ℓ	×	前年度以下 前年度以上
オフィスにおけるエネルギー使用量削減	電気: 4,283kWh/月以下 燃費: 20.68km/ℓ以上*1	5,112kWh 20.59km/ℓ	×	前年度以下 前年度以上
安心・信頼される廃棄物処理サービスの追求	お客様、周辺地域からの苦情件数ゼロ 悪臭・排水処理施設の自主基準値順守	7件 臭気測定・排ガス: 基準値内 排水の適正処理: 基準値内	×	お客様、周辺地域からの苦情件数ゼロ 悪臭・排水処理施設の自主基準値順守

*1 今より環境事業推進課に加えてswell課の燃費も追加し、月間平均で算出しております。

リリーフ				
エネルギー使用量削減 (1時間あたり)	電気: 4.5kWh以下	5.1kWh	×	前年度以下
効率的な資源の使用 (燃費の維持)	ガソリン: 14.3km/ℓ以上 軽油: 6.9km/ℓ以上	13.9km/ℓ 6.9km/ℓ	×	前年度以上 前年度以上
環境負荷低減	事務所内の廃棄物減量: 886kg以下	854kg	○	前年度以下

ダイキョウクリーン				
エネルギー使用量削減 (1時間あたり)	電気: 4.5kWh以下	5.1kWh	×	前年度以下
効率的な資源の使用 (燃費の維持)	ガソリン: 8.31km/ℓ以上 軽油: 5.43km/ℓ以上	5.53km/ℓ 5.41km/ℓ	×	前年度以上 前年度以上
環境負荷低減	水の使用量削減: 649.9m ³ 以下 事務所内の廃棄物減量: 275.5kg以下	731.9m ³ 220.0kg	×	前年度以下 前年度以下

大 栄				
エネルギー使用量削減 (1時間あたり)	電気: 4.5kWh以下	5.1kWh	×	前年度以下
効率的な資源の使用 (燃費の維持)	ガソリン: 11.4km/ℓ以上 軽油: 2.62km/ℓ以上 天然ガス: 3.67km/Nm ³ 以上	12.0km/ℓ 2.86km/ℓ 4.00km/Nm ³	○	前年度以上 前年度以上 前年度以上
環境負荷低減	水の使用量削減: 2,096m ³ 以下 事務所内の廃棄物減量: 560.6kg以下 CO ₂ 排出量削減: 564,059kg-CO ₂ 以下	2,544m ³ 562kg 574,965kg-CO ₂	×	前年度以下 前年度以下 前年度以下
	グリーン購入の推進	コピー用紙などの対象品目の購入	○	継続的な実施

大 協				
エネルギー使用量削減 (1時間あたり)	電気: 25,896kWh以下 ガソリン: 13.44km/ℓ以上 都市ガス: 89.5m ³ 以下	33,370kWh 13.14km/ℓ 98.6m ³	×	前年度以下 前年度以上 前年度以下
効率的な資源の使用 (燃費の維持)	コンテナ車: 4.44km/ℓの±3% 大型車: 2.45km/ℓの±3% 小型車: 3.38km/ℓの±3% 平ボディ車: 4.66km/ℓの±3%	4.36km/ℓ 2.52km/ℓ 3.26km/ℓ 4.90km/ℓ	○	前年度比±3% 前年度比±3% 前年度比±3% 前年度比±3%
環境負荷低減	水の使用量削減: 1,463m ³ 以下 紙の使用量削減: 139.5kg以下 事務所内の廃棄物減量: 359kg以下	1,581m ³ 155.25kg 349kg	×	前年度以下 前年度以下 前年度以下

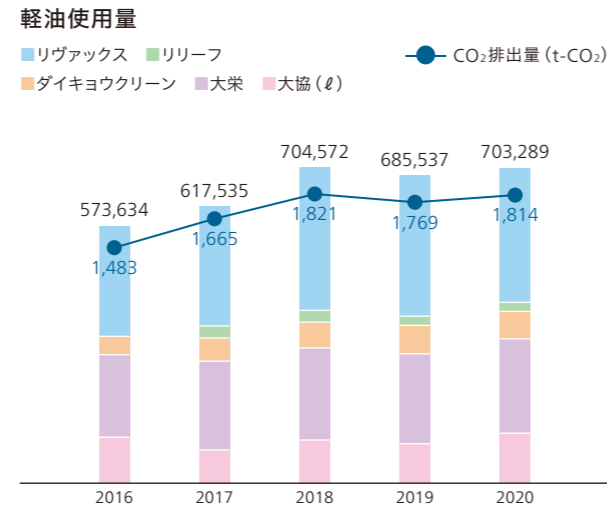
グッドホールディングス				
エネルギー使用量削減	電気: 16,731kWh以下	16,024kWh	○	前年度以下

環境負荷低減の取り組み

軽油使用量

エコドライブに努めています

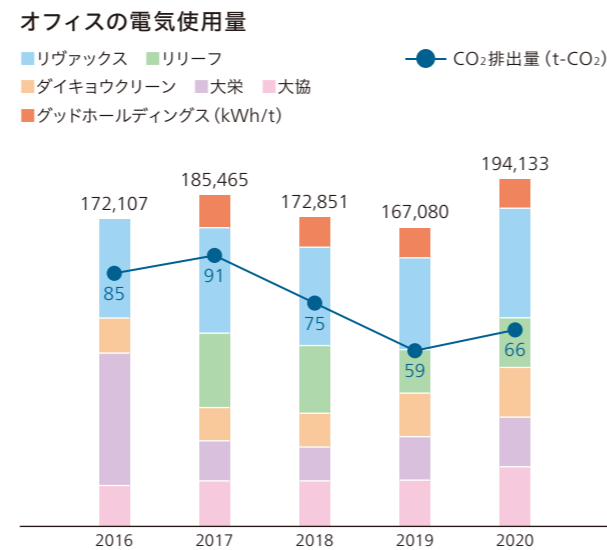
廃棄物の収集運搬で使用する各車両をはじめ、場内で利用するフォークリフト、ショベルなどの燃料に軽油を使用しています。今年度は、軽油使用量が703,289ℓ、CO2排出量が1,814t-CO₂と、前年度より3%増加しました。今後も引き続きドライバーの意識を高め、エコドライブの徹底や、定期点検を実施していきます。



オフィスの電気使用量

照明点灯時間の短縮、空調の温度管理で省エネ活動を推進しています

今年度は新型コロナウイルス感染防止対策として、換気を十分に行いながらの空調使用を行ったためオフィスでの電気使用量は194,133 kWhで、前年度より116%増加しました。今後も換気をしっかりと行いながらオフィスでの照明点灯時間の短縮と、空調の温度管理などによる省エネルギー活動を実施してまいります。

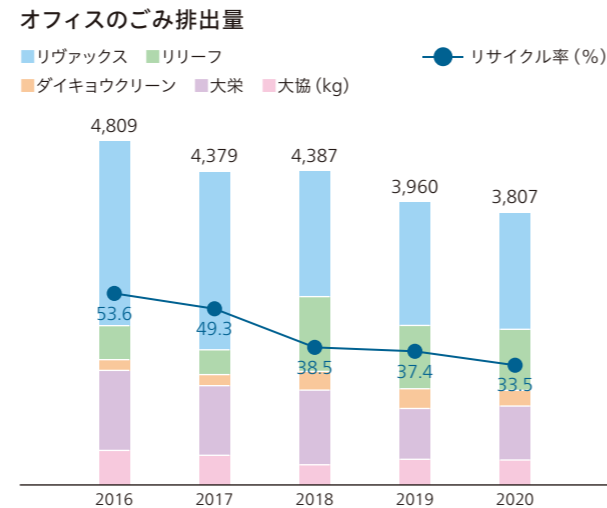


オフィスのごみ排出量

分別・リサイクルの徹底に努めています

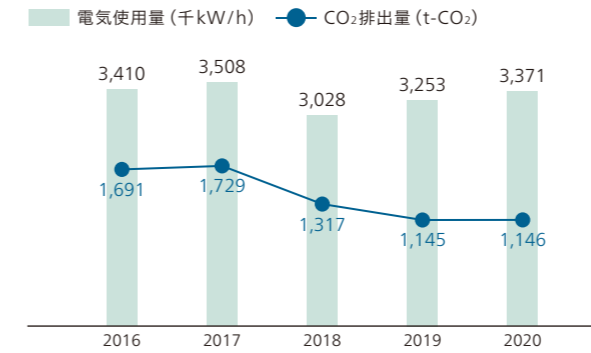
オフィスから排出する廃棄物はリサイクルの可否を基準に種類ごとに分別し、リサイクルを推進しています。

2020年度のオフィスからの総排出量は3,807kg、リサイクル率は33.5%でした。会議などで使用していた紙をデータで共有するなどにより無駄な紙の使用を控え排出量は4%、リサイクル率は11%減少いたしました。

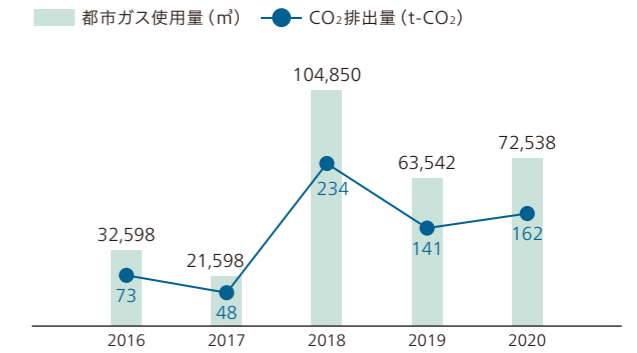


環境パフォーマンスデータ

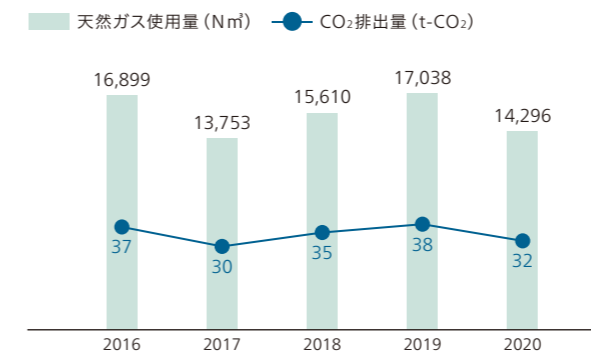
処理センター・オフィスの電気使用量



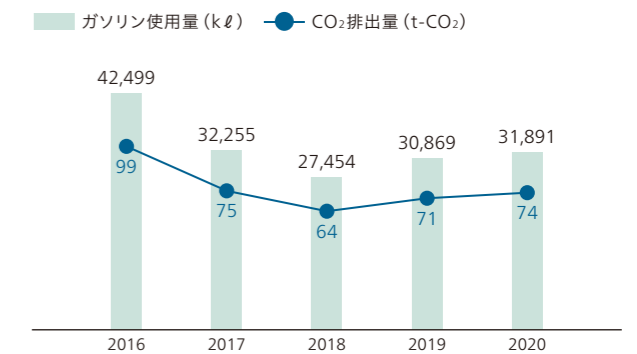
都市ガス使用量



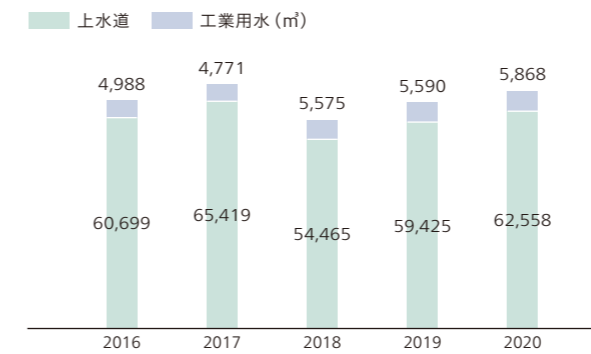
天然ガス使用量



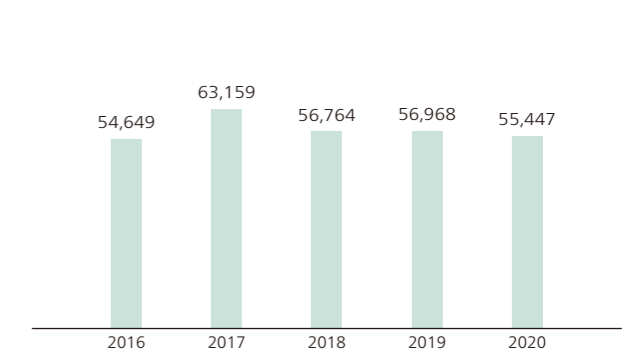
ガソリン使用量



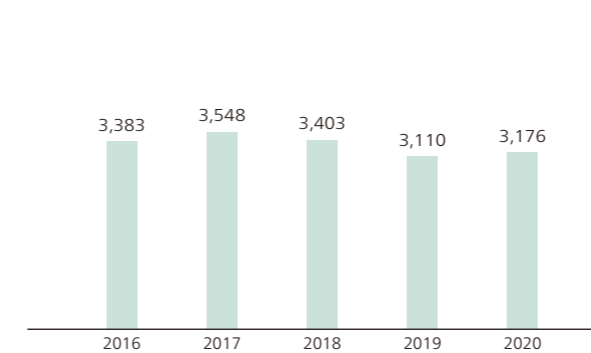
水使用量



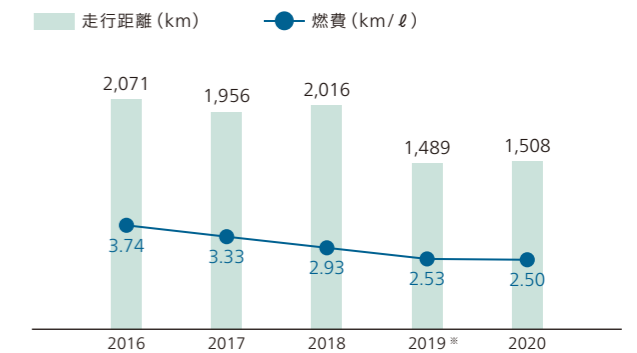
水域への排出量 (m³)



CO₂総排出量 (t-CO₂)



軽油の燃費

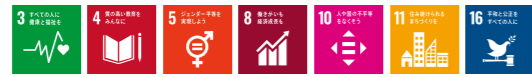


※ 前年度の数値に誤りがあったため、正しい数値を記載しております。



従業員とともに

一人ひとりが仕事に誇りと生きがいを持てる企業グループをめざして



基本的な考え方

グッドホールディングスグループは、あらゆる人の尊厳と人権を尊重し、その重要性和普遍性を認識しています。また、従業員一人ひとりの個性を活かし、ゆとりや豊かさを実感し、生きがいをもって働ける職場環境づくりに取り組んでいます。

活動の目標と実績

[活動のテーマ] 社員ならびに従業員とその家族を含め、お客様のために働くすべての人たちが安心して働ける職場環境づくり

	2020年度目標	2020年度実績	結果	2021年度目標	
リヴァックス	労働災害：0件	2件	×	0件	
	事故ゼロ	物損事故：8件以下 (前年度比50%以下)	22件	×	11件以下 (前年度比50%以下)
	安心して働ける 職場環境づくり	パトロールの実施：月1回 社内一斉清掃の実施：年2回	月1回実施 年2回実施	○	パトロールの実施：月1回 社内一斉清掃の実施：年2回
リリーフ	事故件数の削減 2件以下 (前年度比50%以下)	物損事故：6件 環境事故：1件	×	3件以下 (前年度比50%以下)	
ダイキョウクリーン	事故件数の削減 1件以下 (前年度比50%以下)	労働災害：1件 物損事故：4件	×	2件以下 (前年度比50%以下)	
大 栄	事故件数の削減 6件以下 (前年度比50%以下)	労働災害：5件 物損事故：18件 人身事故：1件	×	12件以下 (前年度比50%以下)	
大 協	事故件数の削減 6件以下 (前年度比50%以下)	労働災害：6件 物損事故：12件	×	9件以下 (前年度比50%以下)	
グッドホールディングス ※グループ全体の数値を 記載しております。	情報セキュリティ 事故件数	深刻、重大事故：0件 限定的、軽微事故：2件以下	0件 1件	○	深刻、重大事故：0件 限定的、軽微事故：2件以下
	情報システム 障害件数	深刻、重度障害：0件 限定的、軽微障害：6件以下	2件 4件	×	深刻、重度障害：0件 限定的、軽微障害：6件以下
	36協定違反：0件		2件	×	0件
	有給消化取得5日以上：100%		取得率：97.6%	×	100%

労働安全衛生の取り組み

リスクアセスメント/ヒヤリハット

毎年すべての作業工程におけるリスクを洗い出し、対策を講じています

株式会社リヴァックスでは、ISO45001(労働安全衛生マネジメントシステム)に基づいて、年1回、全社員ですべての工程におけるリスクアセスメントを行っています。2020年度は709件の危険源を抽出し、その中からリスクポイント

の高い危険源を207件特定し、リスク管理を実施しました。リスクへの対策は、危険源となる作業や行為そのものを除去することを優先し、次いで危険源を隔離する(例：安全策の設置)などハード面の対策、危険の見える化、そして手順の整備、教育訓練、保護具の着用という順で対策を講じています。また、事故に至らずともヒヤリハットの抽出も常時行っており、2020年度は188件でリスクアセスメントを実施しました。

ドライブレコーダーの活用

収集業務の全車両に搭載し、事故を未然に防ぎます

株式会社大栄、株式会社大協では、業務で使用する全車両にドライブレコーダーを車両前後に搭載し、ドライバーの運転を管理しています。ドライバーが自身の運転特性を把握し、安全運転を意識すること、運転技量を向上させることを目的としています。また、運転時に生じたヒヤリハットを記録し、従業員への安全教育や改善指導に使用することで、交通事故の防止に役立っています。

さらに2021年2月からは一部の収集車両でリアルタイムに位置情報を把握し、収集ルートにおいて安全で効率的な運行や収集漏れ防止などに役立つシステムを試験導入しております。今後、導入効果の検証を行いつつ、順次他の車両にも展開していく予定です。



ドライブレコーダーの映像

環境・安全に対する対策

安全管理および廃棄物管理に関する研修に参加しています

廃棄物に関する基礎知識の習得、環境保全および労働安全に対する意識付けを目的とし、大阪府産業資源循環協会が実施している廃棄物管理士講習会に参加いたしました。また、廃棄物の収集・運搬課程についても知見を深めるため、産業廃棄物または特別管理産業廃棄物処理業の許可申請に関する講習会へも参加しております。

交通安全運転講習

作業員全員が安全講習を受講し、事故防止に取り組んでいます

当社グループは全体で約120台の業務車両を保有しております。事業を行ううえで、「安全」は最優先事項であり、グループを挙げて交通事故防止に取り組んでおり、安全運転を徹底するための教育の一つとして、清掃組合主催の交通安全講習会に作業に携わる従業員が全員参加し、事故の実例や普段見落としがちな危険について学んでいます。



交通安全講習会

5S活動の推進

「整理・整頓・清掃・清潔・躰」

きれいな職場を保つことが労働安全衛生につながるの考えのもと、これまでの3S活動に加えて、5S活動(整理・整頓・清掃・清潔・躰)を推進しています。備品や工具類の使用頻度基準を定め、それをもとに必要な数および保管場所を決め、だれが見てもわかるよう「見える化」する、書類をデータ化し廃棄するなど、さまざまな手段を講じています。これらの活動は、仕事に使う備品や道具を探し回らるような無駄な動きを減らし、生産性の向上にもつながっています。



人事に関する取り組み

人事制度

「年功型」と「成果型」に加え、「技能・知識型」を調和させた人事制度を運用しています

当社グループでは、社員が安心して働くことができ、かつ取り組んだ仕事の成果が正当に評価される人事制度をめざしております。人事制度は、社内外の環境の変化に適応し、その時の状況に合ったものに变化させていくことが大切であると考えております。2013年度までは各社が独自の人事制度を運用しておりましたが、新しい事業が生まれる中で、まじめにがんばる人やチャレンジする人を応援し働きがいを感じられる制度をめざし、2014年度に株式会社大栄および株式会社大協において人事制度を見直し、「年功型」と「成果型」を調和させたグループ共通の人事制度を導入いたしました。

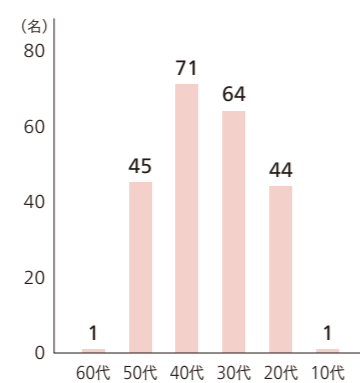
さらに、グループ各社の今後の成長や展開を踏まえたうえで、多様な人材の活躍に対して正当かつ柔軟に処遇・評価を行うことを目的に、2018年度から人事制度の見直しを行いました。給与体系の考え方を整理し、「年功型」と「成果型」、さらに「技能・知識型」と3つの観点を調和させた制度で、有資格者や専門的な知識を有する社員には、それに見合った手当を支給するなどの見直しを行い、2020年度時点で合計114名に資格取得の手当を支給しております。

また、2020年度は同一労働同一賃金に対応するため、アルバイトや派遣社員等有期契約社員の待遇面や福利厚生面の見直しを行い、就業規則などを改訂し2021年度から施行しております。加えて、新型コロナウイルス感染対策としてのテレワークの実施状況を踏まえて、在宅勤務規程を新たに制定しております。

人事制度の変遷



2020年度の社員の年齢構成(名)



人事関連データ

種類	年度	2015	2016	2017	2018	2019	2020
社員	(名)	143	145	161	198	214	228
アルバイト	(名)	52	50	57	57	65	68
従業員数*	(名)	195	195	218	255	279	296
女性従業員比率	(%)	13.6	14.7	15.2	11.4	11.6	13.5
女性役職者比率	(%)	8.3	7.9	9.3	8.6	8.5	8.5
社員平均年齢	(歳)	39.0	31.3	38.2	46.3	39.0	40.2
社員平均勤続年数	(年)	12.2	7.4	8.7	9.3	8.5	8.9
社員離職率	(%)	8.7	8.2	7.7	7.6	13.2	9.5

※ 社会保険未加入の時短勤務対象者も含む

資格取得支援制度の活用

働く人のキャリアアップを目的に資格取得支援制度を設けております

勤務するうえで必要となる資格や技能講習や定期的な研修の受講はもちろんのこと、社員全員が安全かつ質の高い業務遂行ができるよう資格取得の支援を行っております。

資格取得実績

ショベルローダー等運転	7人	破碎・リサイクル施設技術管理士	1人
酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者	5人	運行管理者資格	1人
廃棄物管理士	3人	車両系建設機械(整地等)運転	1人
フォークリフト運転	2人	玉掛技能講習	1人
産業廃棄物適正管理能力検定(応用編)	1人	はい作業主任者	1人
産業廃棄物適正管理能力検定(入門編)	1人	ビジネス実務法務検定(3級)	1人
産業廃棄物中間処理施設技術管理士	1人	貿易実務検定(C級)	1人

安心して働ける環境づくり

ワーク・ライフ・インテグレーション

ライフイベントに合った制度を整備し、仕事と家庭の両立を支援しています

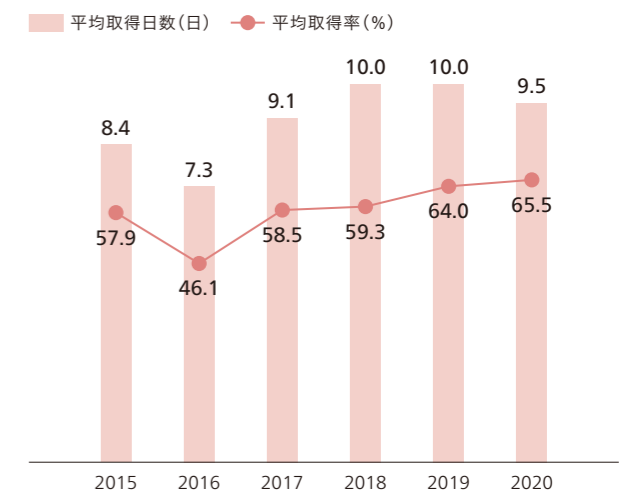
当社グループでは、性別や年齢などの属性にとらわれることなく、分け隔てのない採用、役員・管理職への登用、賃金体系とすることで、多様な人材が活躍できる環境づくりに努めております。

また、2018年度から働き方改革の一環として、勤怠管理システムを当社グループで導入しました。同システムの導入により残業時間や有給休暇などの効率的な管理が可能となっています。これにより、従業員本人が自分の勤務状況について確認ができるとともに、上司が部下の残業時間などをリアルタイムで確認・把握できるようになったことで、仕事の割り振りや配分を適宜調整することなどが可能となり、結果的に残業時間の低減につながっています。

また、従業員のワーク・ライフ・インテグレーション(仕事と生活の融合)の実現を重要テーマと捉え、出産や子育て、家族の看護や介護など、多様なライフイベントに合った制度を整備し、仕事と家庭の両立を支援しています。具体的には、配偶者の出産時に3日間の特別休暇制度を設けているほか、グッドホールディングス株式会社、株式会社リヴァックスおよび株式会社リリーフでは、病院の通院や付き添い、子どもの行事への参加に利用しやすいよう、半日単位で有給休暇を取得できるようにしております。また、2020年度は震災や台風・暴風雨などによる災害時に特別休暇を取得できるように就業規則を改訂しました。

さらに新型コロナ対策のために在宅勤務を実施するとともに、制度の整備を行い、2021年度から正式に在宅勤務制度を導入しております。このように環境の変化や働き方の多様化に対応し、従業員の安全安心につながる制度となるよう継続した改善と整備を行っています。

有給休暇取得状況



主な支援制度

制度名	制度の内容	2020年度利用者
産前産後休業制度	出産前および出産後において一定の期間で休業が可能です	2名
育児休業制度	育児に専念するため、性別に関係なく、子が1歳に達するまで(最長1歳6ヵ月まで)休業が可能です	2名
介護休業制度	介護を必要とする家族の介護のために一定の期間で休業が可能です	0名
短時間勤務制度	3歳に満たない子を養育する社員または家族を介護する社員は、所定労働時間の一部を短縮した勤務が可能です	0名
定年退職者再雇用制度(上記対象者人数)	60歳を超えても働く意欲があり、一定の基準を満たすすべての方を嘱託として再雇用します	1名
自己啓発支援制度	会社の認めるビジネススクールの受講や資格の取得に対し支援金を支給します	4名
慶弔見舞金制度	結婚祝金・出産祝金・傷病見舞金・災害見舞金・死亡弔慰金があります	23名

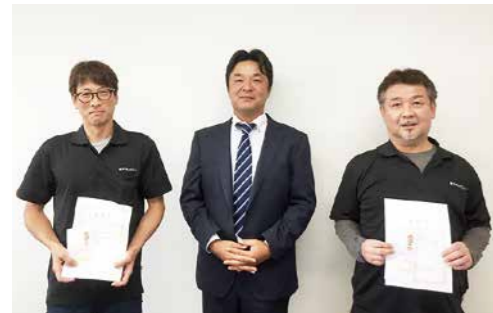
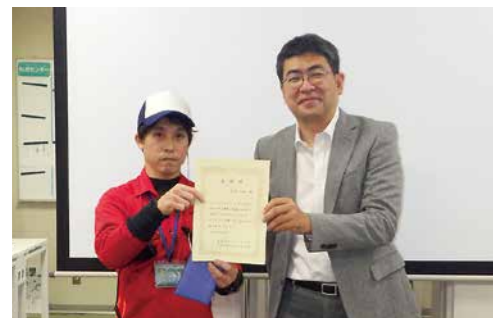
永年勤続者表彰

功績を称え、3名を表彰しました

勤続10年、20年、30年の節目にあたる社員の功績を称え、永年勤続者として表彰しています。

グループ6社永年勤続者(2020年度)

勤続年数	対象人数
30年	1名
20年	0名
10年	2名
合計	3名



従業員の心とからだの健康管理

ストレスチェックを行っています

従業員50名以上の企業に年に一度実施することが義務付けられたストレスチェックを株式会社大栄、株式会社大協および株式会社リヴァックスの従業員を対象に実施しました。産業医によるストレスチェックの実施に加え希望者には面談指導を行うほか、外部相談窓口も設けており、従業員が自分自身のストレス状況に気づききっかけづくりと、メンタルケアに寄り添うサポート体制を整えています。なお、集团的に分析した検査結果をもとに職場環境の改善にも努めています。

さらに、メンタルケア対策として外部専門家によるラインカウンセリングやメール相談窓口を設置し、当社グループ全従業員が直接いつでもどこからでも相談できるようにしています。

大栄ストレスチェック実施概要2020

実施期間：2020年9月1日～9月30日

対象者	受検者
正社員	58名
嘱託社員	3名
アルバイト	7名
合計	68名

大協ストレスチェック実施概要2020

実施期間：2020年10月1日～10月31日

対象者	受検者
正社員	36名
嘱託社員	1名
派遣アルバイト	17名
合計	54名

リヴァックスストレスチェック実施概要2020

実施期間：2020年7月17日～7月29日

対象者	受検者
正社員	50名
嘱託社員	2名
派遣アルバイト	2名
合計	54名

アルバイトを含めたグループ全従業員を対象に健康診断を行っています

産業医による健康診断を年に1回(深夜勤務のある従業員は半年に一回)、実施しているのに加えて、希望者を対象にインフルエンザの予防接種を行っています。健康診断の結果がC～E判定など正常参考値を超えた従業員については、産業医に相談し、就業上の措置や健康保持のためのアドバイスを受け、社員の健康管理に対する意識を高めるとともに、必要に応じて就業内容や労働時間に配慮するなどの健康支援に努めています。

採用活動

31名が新たに仲間に加わりました

事業拡大にともなう人員補強として2020年度は中途採用者を22名迎えました。また、アルバイト活躍支援にも力を入れており、9名のアルバイトを正社員に登用しました。



地域社会とともに

地域社会と地球のために貢献できることを追求する企業グループへ



基本的な考え方

グッドホールディングスグループは、事業を通じて社会の持続可能な発展に貢献するとの考え方に基づき、地球環境としての課題解決への貢献、地域との共生、地域発展への貢献という観点から社会貢献活動を推進しています。

活動の目標と実績

[活動のテーマ] 社会に安心、信頼される企業づくり

	2020年度目標	2020年度実績	2021年度目標
リヴァックス	<ul style="list-style-type: none"> 安心、信頼される廃棄物処理サービスの追求 世の中の食品ロスを減らす 	<ul style="list-style-type: none"> フードバンク関西への寄付 施設見学の受入 メールマガジンの発行 セミナーの開催 	<ul style="list-style-type: none"> 安心、信頼される廃棄物処理サービスの追求 世の中の食品ロスを減らす
リリーフ	<ul style="list-style-type: none"> 地域交流の実施 生前整理セミナーの実施 合同慰霊祭の開催 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども農業塾に参加 サステナビリティレポートの発行 生前整理セミナーの実施 合同慰霊祭の開催 	<ul style="list-style-type: none"> 地域交流の実施 生前整理セミナーの実施 合同慰霊祭の開催
ダイキョウクリーン	<ul style="list-style-type: none"> 社会貢献活動への参加 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども農業塾に参加 サステナビリティレポートの発行 	<ul style="list-style-type: none"> 社会貢献活動への参加
大 栄	<ul style="list-style-type: none"> 社会貢献活動への参加 	<ul style="list-style-type: none"> サステナビリティレポートの発行 子ども農業塾に参加 	<ul style="list-style-type: none"> 社会貢献活動への参加
大 協	<ul style="list-style-type: none"> 地域交流の実施 社会貢献活動への参加 	<ul style="list-style-type: none"> 自治会地域清掃の参加 サステナビリティレポートの発行 清掃活動の実施(週1回) 小学校へサツマイモ苗を寄贈 	<ul style="list-style-type: none"> 地域交流の実施 社会貢献活動への参加
グッドホールディングス	<ul style="list-style-type: none"> 社会貢献活動への参加 慈善団体などへの寄付 サステナビリティレポートの発行 報告書賞への応募 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども農業塾に参加 チャイルド・ドリームへの寄付 サステナビリティレポートの発行 報告書賞への応募 	<ul style="list-style-type: none"> 社会貢献活動への参加 慈善団体などへの寄付 サステナビリティレポートの発行 報告書賞への応募

子ども農業塾の開催

子ども農業関係者イベントの開催

2020年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、安全を考慮し市内の小学生の参加を中止し、当社グループ会社の社員およびご家族の方のみ参加の「稲刈り、芋ほり収穫体験」イベントを2020年10月18日に開催しました。

また、当社グループにおける子ども農業塾の取り組みが文部科学省「令和2年度青少年の体験活動推進企業表彰」審査委員会奨励賞を受賞いたしました。



地域清掃

地域の美化活動に貢献しています

毎年、各事業会社にて自治組織主催の地域清掃に参加しています。2020年度は、新型コロナウイルスの影響で2020年11月の1回のみでの開催となりましたが、株式会社リヴァックスが鳴尾浜産業団地の自治組織主催の清掃活動に参加し、近隣のごみ拾いと草取り、周辺道路の清掃を行いました。今後も当活動を継続し、地域の美化活動に貢献していきます。



JICA研修の受け入れ

海外の廃棄物に関する課題解決を支援しています

独立行政法人国際協力機構（JICA）関西では、各国の廃棄物にかかわる自治体職員の行政能力向上を目的とした研修をされています。2020年度は新型コロナウイルスの影響もあり実施されませんでした。直前の2020年2月に株式会社リヴァックスにて、独立行政法人国際協力機構（JICA）関西の研修を受け入れました。



この研修は、廃棄物に関わる各国の政府および自治体職員の行政・管理能力向上を目的に行われているもので、バングラデシュ、エジプト、ジョージア、ミャンマー、パキスタン、トルコの6か国から6名が来社されました。産業廃棄物のリサイクル事業および省エネルギー対策についての説明や、乾燥施設や破碎・破袋施設などの見学に参加いただきました。



献血活動の普及・啓発

献血推進活動を応援しています

株式会社大栄では、社会貢献活動の一環として、日本赤十字社の献血推進活動を応援しています。2020年度は、全事業会社の従業員に参加を募り、8月に献血活動を行いました。献血受付者数は32名、献血者は26名の従業員が参加しました。献血人口の減少の深刻化が懸念される中、これからは献血活動のさらなる普及・啓発を支援する「献血サポーター」として積極的に協力していきます。



企業スポーツ活動

セーリングチームが各種大会に出場しています

当社グループでは、2013年にセーリングチームを創部しました。以降、数々の大会で好成績を収め、2019年10月には日本代表として世界大会に出場するなど着実に実績を積み上げています。

2020年4月には新入社員1名が新たなメンバーとして加入し、さらなる活躍をめざしておりましたが、新型コロナウイルスの影響で、全国的に多くの大会が中止や延期となり、2大会のみの開催となりました。そんな中、2020年9月の国際スナイブ級関西選手権大会では3位入賞と健闘し、11月の全日本スナイブ級ヨット選手権の出場権を獲得しました。



2020年度成績・活動報告

- 9月 国際スナイブ級関西選手権大会
山本・田辺 3位
- 11月 全日本スナイブ級ヨット選手権
山本・桑原 41位

お客様とのコミュニケーション

展示会への出展

多くのお客様とお会いできる機会をつくります

事業内容やCSRの取り組みを知っていただくだけでなく、多くの方が抱えている現状のさまざまな課題をお聞きするため、グループ各社がさまざまな展示会に出展しております。

2020年度に出展した主な展示会

開催月	開催者	名称
7月	リヴァックス	メンテナンス・レジリエンスOSAKA 2020
11月	ダイキョウクリーン	ビルメンヒューマンフェア&クリーンEXPO 2020



展示会

セミナーの開催

啓蒙活動に努めています

当社グループでは、お客様や消費者の方が環境や社会問題に対して、関心・知識をもつことが大切と考えております。そのため、各社で定期的に情報を発信するとともに、みなさまが相談できる場の提供を行っております。

2020年度に開催、登壇したセミナー

開催月	名称
2020年7月	毎日新聞社オンラインセミナー「遺品整理の上手な進め方」
2020年11月	福祉葬祭 生前整理セミナー「転ばぬ先の生前整理」
2020年12月	一般社団法人シニアライフよろず相談室 シニア向けサービス見本市
2021年1月	小田急不動産 世田谷「実家の片付け&空き家解決」
2021年1月	小田急不動産 新百合ヶ丘「実家の片付け&空き家解決」
2021年2月	関西学院リアルターズクラブ勉強会 「不動産取引で押さえておくべき廃棄物処理法の基礎」
2021年2月	ニチリョク「終活セミナー」

社長ホットラインの設置

お客様からの大切なお声をダイレクトにお伝えいただけます

お客様のみならず、取引先様からのご意見や気づきを大切なお声として頂戴するために、グループ各社の社長へ直通するメールフォームをグッドホールディングスグループ全社のホームページで公開しております。寄せられたご意見は社長を含めて各部門にて共有し、今後のサービス向上に役立ててまいります。

メディア出演・掲載実績

当社グループ各社の取り組みを各メディアにて取材、掲載いただいております

リヴァックス

メディア名称	取材・出版会社
神戸新聞2020年6月17日	神戸新聞社
メガソーラービジネス2021年2月12日	日経BP
循環経済新聞2021年2月22日	日報ビジネス

リリーフ

メディア名称	取材・出版会社
CM放映「遺品整理のプロ」	各テレビ局
月刊廃棄物2020年4月1日号	日報ビジネス
全国賃貸住宅新聞2020年5月4日	全国賃貸住宅新聞社
全国賃貸住宅新聞2020年8月17日	全国賃貸住宅新聞社
日税ジャーナル第38号(2020年秋号)	日税ビジネスサービス

ダイキョウクリーン

メディア名称	取材・出版会社
循環経済新聞2020年9月14日	日報ビジネス

大栄

メディア名称	取材・出版会社
産経新聞2020年6月10日	産業経済新聞社

消費者課題への取り組み

ウェブカメラの設置

廃棄物処理状況をリアルタイムで公開しています

株式会社リヴァックスの施設内にウェブカメラを設置し、ホームページにてリアルタイムの映像を配信しています。遠隔地からでも廃棄物の搬入状況をご確認いただくことで、廃棄物処理の透明性を実現しています。



廃棄物の搬入・計量場所

契約外廃棄物の混入防止

コンテナに掲示板を設置し、混入防止に努めています

事前に契約したものと異なるものが混入していた場合、適正な処理が難しくなるだけでなく、事故や火災などの原因につながる可能性があります。株式会社リヴァックスでは正しい分別ができていない場合、すみやかにお客様に報告し、再発防止に努めるとともに、設置しているコンテナ箱に掲示板を設置するなど混入を未然に防ぐよう努めています。

事業継続計画（BCP）の取り組み

BCP災害対策本部を設置しています

当社グループでは、大規模地震ならびに大型台風の発生を優先対応リスクの一つとして位置付け、被害未然防止のために従業員（とその家族を含む）の生命と安全を確保し、『地域社会の早期復旧』と『顧客の事業活動』に貢献すべく、可能な限りすみやかに事業を再開し、継続できるようBCP災害対策本部を設置しています。また、2020年3月には、新型コロナウイルス感染症の拡大に対して、従業員の健康・安全の維持と社会的な使命を帯びた事業の継続を担保するために、新型コロナ対策としてBCP災害対策本部を設置し、感染症による事業リスクや防止対策、感染した従業員への休業補償などについて協議、情報共有を行いました。

新型コロナウイルス感染症に対する

BCP対策本部での協議概要

開催 2020年3月～4月に3度BCP対策本部による協議を実施

概要 当社グループ各社における事業への影響度・リスク、対応方針・課題、具体的な感染防止対策案、従業員への休業補償や助成金などの検討、国や各自治体からの情報モニタリングなどについて協議および情報共有を実施。

BCP訓練

2020年7月および10月にBCP訓練を実施しました。台風および震災を想定した、初動対応や安否確認を実施しました。

安否確認システム導入

人手に頼らず災害時に確実に従業員（正社員だけでなくアルバイトや派遣社員なども含め）の安否確認を迅速、確実に実施できるように、2020年9月に安否確認システムを導入しました。これにより、短時間での従業員の安否確認と情報伝達が可能となりました。

BCPマニュアル改訂

新型コロナウイルス感染症の流行を受け、2020年8月にBCPマニュアルに新型コロナウイルス感染症に対する対応マニュアルを追加し、感染症の予防対策、感染症疑いがある場合、濃厚接触者となった場合、感染した場合などの対応について、初動から具体的な対応内容について記載しております。

グッドホールディングスグループはチャイルド・ドリームの活動を支援しています



Child's Dreamについて

1990年代後半に計画経済から市場経済の道を歩み始めたカンボジア、ベトナム、ラオスなどメコン川流域の国々。「東南アジア諸国連合（ASEAN）」のこれらの国々は、大きく変化する社会・経済環境の中で、確実に発展を遂げています。しかし、一方で地方との格差は急激に拡大しており、経済的不平等や内戦、政情不安などにより複雑な問題が絡み合い、いまだ深刻な人道危機が発生しています。

人権侵害により十分な教育機会が与えられていない子どもたちのために2003年より活動を始めた団体が「Child's

Dream」です。子どもたちの医療・教育環境を改善すべくコミュニティとの協働を通して目的を達成することを目標に日々活動に取り組んでいます。



グッドホールディングスグループが支援する理由

当社グループでは、「五方よし」を経営理念として売り手と買い手がともに満足し、また社会貢献もできる会社をめざしております。

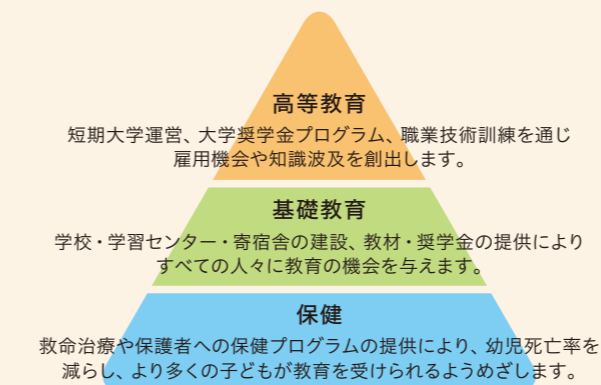
また、社員および従業員を含む関係者が自らの成長と豊かさを実感すること、さらに次世代へ向けて持続可能な社会の構築を目標にさまざまな社会課題の解決に積極的に取り組んでいます。社会貢献においては国内のみならず、世界の人々の豊かな社会の実現にも積極的に貢献していきたいという思いがあります。

株式会社リリーの「おかたづけサービス」で回収した不用品（家具、日用品など）を海外で再び活かす取り組みを2013年より始めました。これまで東南アジアを中心に活動してきましたが、都市部から離れた地域を訪問するにつれて、さまざまな社会問題や経済格差を目の当たりにしました。

そのような問題の将来的な解決のため教育機会の提供で子どもたち・青少年の自立を支援する「Child's Dream」に共感し、グループ全体の売上の一部を寄付することとしました。

Child's Dreamの活動について

Child's Dreamの活動には「保健」「基礎教育」「高等教育」があります。その中でも教育は、貧困撲滅、持続的経済成長への大きな原動力です。理解力や正しい判断力を鍛え、文化的平和や深い社会のつながりの基盤を構築することができ、所得獲得および質の高い雇用機会を生み出すことができます。

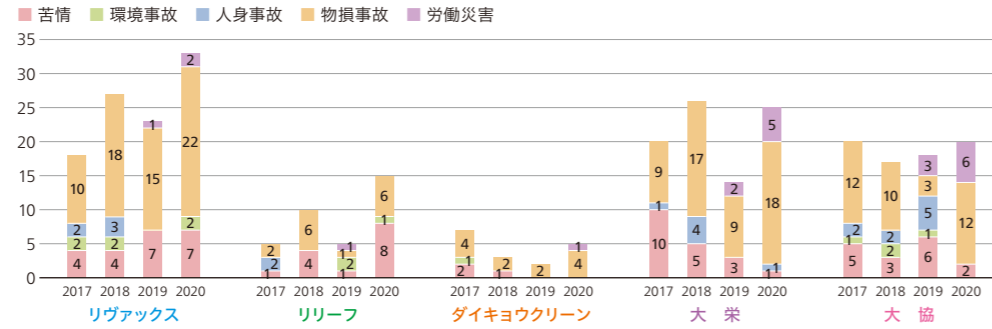


Child's Dreamの活動実績（2020年時点）

高等教育	8,163名の学生へ職業訓練の指導を提供しました。 621名の学生に大学進学のための奨学金を給付しました。
基礎教育	344校の学校を建設しました。 2,302校の高校および専門学校へ奨学金を給付しました。
保健	3,054名へ薬物防止のための意識啓発を行いました。 20,069名の子どもたちへ健康・衛生教育を提供しました。 1,950名の子どもたちへ救命手術と医療支援を提供しました。

苦情・事故

2020年度の苦情・事故は99件(苦情18件、事故66件、労災15件)で、昨年度62件(苦情17件、事故38件、労災7件)と比較し、増加いたしました。社会にとっても、働く従業員とその家族にとっても安全で安心な企業をめざし、再発防止に努めてまいります。



リヴァックス

件数	内容	原因	対策
1	隣地企業様より臭気の苦情 ※	バイオマスボイラのトラブルにより高濃度臭気処理を脱臭炉に切り替えたこと、またその影響により低濃度臭気処理の風量バランスが変り、荷下ろしトラック搬入でシートシャッターを開放したタイミングでガリ窓から建屋内臭気が外に漏れたと推測	・バイオマスボイラトラブルはすぐに復旧、通常の臭気処理に戻す ・シャッター開放時の臭気漏れリスクは、ガリ窓に逆流防止用パネルを取付け防止する
1	隣地企業様より臭気の苦情 ※	状況確認の為、先方へ訪問。薬液洗浄脱臭処理後の薬品臭がした	薬液洗浄脱臭装置の薬品濃度を下げた管理値に変更する
1	吸引作業終りに吸引車の音がうるさく、もっと静かに作業できないかと排出事業者近隣住民からいわれる	車両の構造上、騒音と感じるレベルの音が発生する為	排出事業所に苦情の件を報告。引取方法の見直しを検討いただくよう依頼
1	隣地企業様より臭気の苦情 ※	状況確認の為、先方へ訪問するが、臭いの有無と原因は不明	苦情の情報を社内周知し、注意喚起を行う
1	隣地企業様より臭気の苦情 ※ (若干の臭いがする)	状況確認の為、先方へ訪問するが、臭いの有無と原因は不明	苦情の情報を社内周知し、注意喚起を行う
1	隣地企業様より臭気の苦情 ※	汚泥積み込み作業時の複数回計量を行う為に積み込み場から退出する際、車両のコボレーン(荷台蓋)が使用されない状態で場内通行を行っていた	複数回計量時の積み込み場から退出する際、都度の荷台コボレーンもしくは荷台シート掛けの徹底をドライバー、積み込み作業員へ再周知を行う
1	隣地企業様より臭気の苦情 ※	バイオマスボイラメンテナンス後の臭気切り替え時に、臭気ダクトの仕切り板入れ忘れにより、臭気漏れが起こっていた	手順書変更し、仕切り板の挿入を追記した

環境事故2件

1	協力会社処理施設内排出(圧送)作業時に、パーブ口後部のハッチから廃液を漏洩させてしまった	作業手順の確認が不十分であった	・吸引車手順書の圧送排出作業での作業手順と漏洩時の対処の仕方を詳細に変更し周知する ・緊急時対応訓練時に漏洩事故の対処の仕方と圧送操作を実演し再確認を行う
1	協力会社処理施設構内で排出待ちで待機中、吸引車吸引口のキャップから液が漏洩していた	事前の点検が不十分であった	・車両点検ルールの見直し ・作業手順の改定 ・社内教育の見直し

物損事故22件

1	乾燥施設へ排出しようとしてバックで施設内に入ろうとしたら、出入口シートシャッターが下がってきて吸引車と接触。シートシャッターがガイドから外れて施設の壁と接触し凹ませてしまった	慣れた現場で確認を怠った	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
1	客先現場にて、残渣のコンテナ交換後、計量器に乗る際に助手席側のバンパーを計量器の鉄骨に接触させてしまった	確認が十分でなかった	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
1	コンテナ箱を引上げ作業中に小屋のブロックに運転席側サイドミラーを接触させてしまい、ミラーにひびが入った	慣れた現場で確認を怠った	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
1	客先現場での計量後に前進する際、前方コンテナを避けるためハンドルを左にきり、1つ目の鉄柱をかわした後に、オーバーハングで2つ目の鉄柱に接触した	確認が十分でなかった	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
1	客先現場にてクリーニングタワー充填剤の洗浄作業(水圧:100kg/cm)をした際、充填剤の網目に亀裂が入り割れてしまったため設備破損を起こした	事前の確認が十分でなかった	・事故事例の周知 ・月1回のヒヤリハットミーティング時に危険予知訓練を実施する
1	構内荷下ろし場所Dでウィング車にて荷下ろし後、左折退場しようとしたら場内に置いている10tコンテナと運転席後方が接触した	慣れた現場で確認を怠った	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
1	構内荷下ろし場所Dで荷下ろし後、計量に向かおうとハンドルを右に切った際に、オーバーハングにより蛇腹の門と接触した	慣れた現場で確認を怠った	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
1	高速道路運転中、前方を走っていたトラックからの飛び石でフロントガラスにひびが入った	前方車両との間隔が十分でなかった	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
1	フォークリフトを操作し空パッカンの移動をさせた際、破砕棟前に停車してあったバックカーの左側側面にリフト後部が接触し、車両に傷をつけてしまった	慣れた現場で確認を怠った	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
1	洗車のためにRMCへ入場の時、運転席側の後輪とコンクリート(花壇)の側面が接触。ホイールの変形とタイヤをパンクさせた	慣れた現場で確認を怠った	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
1	客先現場にて22tコンテナの脱着作業時に、床面のマンホールおよび周辺の舗装を破損させてしまった	事前の確認が十分でなかった	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
1	ばいじん積込中に回転させ終わったパッカーが滑り落ち、ばいじん引取業者の車両のコボレーンに接触した	事前の確認が十分でなかった	・フォークでの積込中、爪が閉じないよう常に油圧をかけながら回転させる ・業者への点検、原因究明依頼 ・パッカーをフォークの爪の根元まで差し込んで積み込める位置まで車両を寄せてもらう
1	駐車場に車を止めていた際、隣のスペースに止めようとしてバックしてきた車に接触された	相手方の不注意による	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した

※隣地企業様とは、関係が良好であり、「少しでも気になったことがあれば言ってください」という関係の中で、苦情が計上されています。

物損事故22件

1	積込場に10tコンテナ車にてコンテナを設置し、シートシャッターを閉めた時に助手席側のミラーとシートシャッターが接触。車両の丸ミラー破損とシートシャッターのレールが外れ、バーをゆがませてしまった	慣れた現場で確認を怠った	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
1	コンテナ入替作業の時、荷が入っているコンテナを引上げた際に車両側のコマにコンテナのレールがのっていないのにそのまま引き上げてしまい車両から脱落した	慣れた現場で確認を怠った	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
1	営業車のフロントガラスにひび割れがあった	飛び石によるものと思われる	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
1	側溝清掃作業中、作業場が道幅の狭い道路であったため、民家の住民に許可をもらいバックで駐車しようとしたが、ガレージ壁面に4t吸引車の後方バンパーを接触させてしまった	バック時の確認が不十分であった	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
1	専用パッカーを荷下ろしするためにコンテナを脱着した際、左後方の構内制限速度の表示板と接触した	慣れた現場で確認を怠った	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
1	引取の帰り、3号神戸線摩耶出口200mほど手前で渋滞のため停車した際、その後すぐに後ろから追突された	相手方の前方不注意による	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
1	顧客場内走行中に車両を切り返そうとしてタイヤでマンホールを踏んだ際に、マンホールが割れてしまった	慣れた現場で確認を怠った	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
1	廃液振動篩パッカー交換後に、リフトのサイドブレーキを引かずして後進ギアを入れたまま離れてしまい、廃液荷下ろし業者の運転手にリフトが勝手に動いていることを指摘され、急いでリフトに乗り込みブレーキを踏んだつもりがアクセルを踏んでしまったことにより、車両と接触した	停車時の確認が不十分であったことと焦って対応を誤った	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
1	信号待ちで停車中に対向車のトラックが来て幅的にすれ違うのが厳しそうだったため、バックで寄せようとしたら後続車にバンパーが当たってしまった	バック時の確認が不十分であった	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
1	コンテナのコボレーン(自動開閉シート)を開める際、関節部に添えていた右手中指を挟んだ	作業中の注意不足	事故の可能性を想定し、十分注視して作業するよう指導した

労働災害2件

1	グラインダーでコンテナのプラスチック部分を切断しようとしたところ手を滑らせて足元に落ち、左足の甲を裂傷した	作業者の認識と注意不足により、用途に不適な使い方をした	<ul style="list-style-type: none"> すべてのグラインダーを手を離すと回転が止まるタイプに買い替えた 塩ビ用の刃を購入し、ケミコン切断時に使用する旨を周知する 使用用途ごとに置き場を分けて、表示・管理を行う 安全教育を再度実施し、グラインダー使用については手順書を作成する 保護カバーの付けられないサイズの刃は回収・使用禁止とし、刃のサイズを統一する
---	---	-----------------------------	--

リリーフ

件数	内容	原因	対策
1	お客様が持ち歩いているメガネを作業時に誤って処分してしまっ	作業時にお客様が作業現場に忘れていかれたことに気付かず作業してしまっ	お客様へも取り置き品の保管場所の共有を徹底する
1	見積りを行なった際、1箇所電気を消し忘れてしまった	確認が十分でなかった	退去する場合は必ずすべての電気を確認する。可能であればブレーカーを切るよう徹底する
1	見積りの際に撤去予定だったエアコンと照明を、やはり撤去しないと連絡を受けた際、情報共有に漏れがあり撤去してしまっ	電話を受けた者がシステム更新を失念してしまい、作業担当者に情報が伝え漏れてしまっ	電話を受けた直後にシステム更新を行う業務フローに修正し徹底する
1	見積りの際に撤去予定だった洗濯機を、やはり撤去しないと連絡があったが、作業の際に失念して撤去してしまっ	確認が十分でなかった	お客様が作業の立ち会いをされない場合は特に、作業前および作業中に再度作業内容を確認する
1	作業日程の調整に時間がかかっていたが、途中連絡をしなかったため、お客様を不快にさせてしまっ	お客様とのコミュニケーションの取り方に問題があった	作業日程の目途が立たなくても、定期的にお客様に連絡を入れるよう、次回の連絡日を決めておく
1	残しておくモノをお客様に確認したところ、紹介元の担当者に伝えているのを聞いていないのかと苦言を受ける	作業内容の確認が十分でなかった	紹介担当者が間に入る場合は、電話にて作業内容の確認を徹底する
1	底の木の伐採作業について、お客様と認識のズレが生じてしまっ	作業内容の確認が十分でなかった	見積の際に、残置物だけでなく他にも要望があるかどうか確認する
1	お客様に対する話し方が砕けすぎていると指摘があった	お客様に対する態度がなっていないかった	言葉遣いを意識する
1	お客様の立会い無しでの作業だったが、残置物が残っているとご紹介いただいた担当者よりご指摘があった	確認しづらい後付けの棚があり、見落とししていた	作業後の残置確認を2名体制で実施する

苦情9件

1	駐車場から車をバックで出庫する際、標識のポールに接触してしまっ	事故予測が十分でなかった	後方確認を徹底する
1	軽自動車を運転中、ホルダーから外れてしまったスマートフォンを拾う際、前方の渋滞に気付かず、前方の車両に追突してしまっ	停車しないだろうという思い込みから余所見してしまっ	運転に集中できない場合は、必ず車を一旦停車して対応する
1	エアコンのパイプが窓を切り抜いて通っていたが、取外しの際にパイプの振動でガラスを割ってしまった	事故予測が十分でなかった	ガラスに近い作業は、事故を予測し慎重に手順を考える
1	助手の指示の元、トラックをバックした際、道路標識に接触してしまっ	事故予測が十分でなかった	見通しの悪い場所では助手と連携し、大きな声での誘導を実施する
1	家具を乗せていた台車を家のドアに接触させてしまいドアを傷つけてしまっ	事故予測が十分でなかった	台車が接触する可能性があるところは養生を施し、大型家具を運ぶ際は必ず2名体制で搬出する
1	処分してはいけないモノを間違えて処分してしまっ	確認が十分でなかった	・作業前にお客様との確認を徹底する ・取り置きを明確にする工夫を行う

ダイキョウクリーン

件数	内容	原因	対策
1	左右と曲がるS字カーブを走行中、積み荷の揺れに対応しきれず横転した	減速が不十分のままカーブに進入した	カーブに進入する前に十分な減速を行うこと、積み荷の状況を踏まえて危険予測をしっかり行うことを周知した
1	両側通行が難しい道幅の狭い踏切にて、対向車を先に行かせるべくバックした時に後方にいたバイクに接触し破損させた	バック時の確認が不十分であった	バックを行う際は、目視、サイドミラーやバックモニターなどで確認をし慎重に運転するよう指導した
1	現地駐車場から出る時に、出口付近の駐車車両右前側面にバキューム車左後部が接触した	思い込みと注意不足	周囲の状況を把握し慎重な走行を心がけるよう指導した
1	右折の為停車中、後続車両に追突された	相手側の前方不注意	周りの状況を十分に把握し、突発的なことにも対処できるよう注意する
1	炎天下の作業で休憩を取っていたものの、頭痛に続き痙攣を起こした	熱中症対策が十分でなかった	こまめに水分補給や涼しい場所での休憩、瞬間冷却材の携帯などの対策を徹底する

大 栄

件数	内容	原因	対策
苦情1件	コンビニでの段ボール回収時、誤ってお客様より宅配の依頼を受けていた段ボールまで回収してしまった	確認が十分でなかった	事前に回収すべき段ボールを確認する
人身事故1件	交差点に進入した際、反対車線から右折してきた車両に衝突された	相手側の無謀運転による	周りの状況を十分に把握し、突発的なことにも対処できるように注意する
	狭い道を右折して進入する際、民家の壁に前方左下部分と接触しブロックを破損させた	確認が十分でなかった	不慣れな道や見通しの悪い道、狭い場所では細心の注意で作業をるように指示した
物損事故18件	ごみ収集後バックで敷地を出ていく際、左後に停車中の車両に気を取られ、真後ろに停車していた車両の後部ドアに接触し破損させた	運転操作を誤った	バックを行う際は、助手が後方確認を行うとともに、慎重に行う
	バックでゴミ庫につける際、ゴミ庫のひさし部分に接触した	後方確認が十分でなかった	バックを行う際は、助手が後方確認を行うとともに、慎重に行う
	マンション内の天井の低い駐車場を走行中、天井に設置しているモニターのカバーに接触した	後方確認が十分でなかった	進入する際、天井の高さの確認を行う
	バックでマンションの敷地に入る際左後方を壁に接触した	後方確認が十分でなかった	バックを行う際は、必ず目視で後方確認を行うとともに、慎重に行う
	信号待ちの際、HAS(自動ブレーキ)がオンになっていると思いブレーキから足を離してしまったことで、ゆくりと前進し、前方の車両に接触した	確認が十分でなかった	停止時は必ずサイドブレーキを引くよう指示した
	ゴミステーション横にバック中に助手がゴミステーションの扉を開け、車両の横込みボタン横のバーと接触した	停車前に扉を開けてしまった	車両が停車したのを確認したうえで、扉を開けるよう徹底する
	前方に停車中の車両をかわそうとした時、停車中の車両が発進をしたことで、相手車両の右前部分と自車の左後方が接触した	確認が十分でなかった	停車中車両をかわす場合は、十分に間を空けるか、発進しないか細心の注意をしながら運転する
	駐車場の入り口手前にあるごみ置場までバックしている際、右後方より駐車場に入ろうとしてきた車両と接触した	後方確認が十分でなかった	回収場所を通り過ぎても無理にバックせず、選び出して回収するようにする
	点滅信号の交差点内を、こちらが黄色点滅で直進で、相手が赤色点滅で右折する際、相手が一旦停止をせずに交差点内に侵入したことで衝突した	相手側の一旦停止違反だが、事故予測が十分でなかった	点滅信号の交差点では細心の注意をして走行する
	コンビニにバックで入る際、標識ポールとトラック後方部分が接触した	後方確認が十分でなかった	コンビニの敷地内のごみ収集は敷地内にトラックを止めずに行う。また、バック時は必ず目視で後方確認を行う
	ガソリンスタンドに入る際、左後輪の重さでコンクリートのスロープを破損させた	確認が十分でなかった	進入路の状況を確認し、安全な進入路を走行する
	停車中のトラックの横を通り越す際、右側にあった門扉のポストに接触し破損させた	狭いところを無理に通ろうとした	確実に通れるように、停車中のトラックに移動してもらう
	バックでゴミ庫につける際、左後方に停車中の車両に接触した	後方確認が十分でなかった	バックを行う際は、助手が後方確認を行うとともに、慎重に行う
	対向車をかわそうとした際、相手車両が停止しているのを確認せず進んでしまったことで、右側後方が接触し破損させた	確認が十分でなかった	十分な間隔を確保できることを確認したうえで、走行する
	高速道路をコンテナで運搬中、荷台から机の引き出しが落下し、後続車のバンパーに接触し破損させる	積み荷の落下防止の対応が不十分であった	走行前には積み荷の状態をしっかりと確認するよう再周知した
	下り坂でコンテナを下す際、フックが外れコンテナが滑り落ち、廃棄物にあたって止まった	下り坂での作業を実施した、また作業人数が不十分であった	下り坂でのコンテナ降下作業は実施しない。避けられない場合は、十分な人数で余裕をもって作業を行う
	収集後、右折して出発する際、右手前にあったポールに気づかず接触した	確認が十分でなかった	しっかりと目視で確認をすよう指示した
	センターラインからはみ出してきた対向車と衝突	・相手側のセンターラインはみ出し ・事故予測が十分でなかった	カーブでの前方注意を徹底する
通勤時、バイクで走行中に右前方から自転車飛び出してきた為、急ブレーキをかけて転倒	事故予測が十分でなかった	交差点での飛び出しを予測し減速・徐行を行う	
トラックから降りる際に右足が乗降ステップで滑った	靴底に残飯が付着していたため	降りる際は、体を支えられる場所を手で掴むよう指示した	
ごみ収集作業時、袋入りの電池を取る際、中に入っていたガラスの破片で右手中指を切削した	電池がはいった袋にガラス破片が混入していた	中身が見えない袋を持つ場合は結び目を持つよう周知した	
ごみ収集作業時、ストッカーの後部にあったごみを回収する為、踏み込んだ際、釘が左足裏に刺さった	確認が十分でなかった	足場の事前確認を行うよう指示した	

大 協

件数	内容	原因	対策
苦情2件	客先にて受け取ったmanifest伝票を紛失した	受け取った後、客先にて落としたことに気づかないままであった	コース表に基づき1件1件、manifestを発行した時点で必ずチェックする
	ゴミステーションのネットを塞ぐ板を、個人の住居の敷地内に許可なく立てかけられたことが度々あった	ゴミステーション内の備品の管理方法が十分でなかった	住民への謝罪およびステーション内備品の取扱についてはステーション内で実施すること、たとえ仮置きであっても個人の敷地内には置かないことを周知徹底した
物損事故12件	後続車両を先に行かせようと左に寄せ少しバックしたところポールがあり車両後部と接触した	バック時の安全確認を怠った	後方確認を徹底する
	発進時に左後方とマンションの防犯カメラが接触した	急いでいたため焦ってしまった	どのような時でも冷静で落ち着いた運転業務を心がけるよう指導した
	プレス車で廃棄物を巻き込む際、ガラスの飛散により、傍に止めていた駐車車両に当たり傷がついた	プレス車の停車位置が適切でなかった。また、廃棄物を巻き込む際、フタをしていなかった	車を停車する際の適切な位置や向きおよび飛散しそうな廃棄物の回収時はフタをすることを徹底した
	バックでステーションにつける際、右後方に設置されていたごみの籠に当たり破損した	確認が十分でなかった	オーバーハングを常に意識し、窓を開けて後方確認のうえ、助手の指示にも従うことを徹底する
	部屋からテーブル運び出す際、そのままでは出なかったため、テーブルを縦の状態にしようとした時に床にあたり、床を傷つけた	作業時の注意不足	家具を運び出す際、周囲の状況をしっかりと確認したうえで作業にあたることを徹底する
	キャビンと荷台間に載せていたシュレッダー袋が籠からこぼれ、エンジン系の高温箇所には落ちていない事に気づかず作業をしていた為、そこから火災発生。車両搭載消火器で消火した	キャビン後ろに積んでいたシュレッダーがエンジン付近に落ち発火した	キャビン後ろはエンジンなどがあり高温になり発火の可能性が高いため、何も積まないことを徹底する
	収集するマンションとは違うマンション敷地内に車を止め収集を行っており、それが原因で敷かれていたタイヤが割れた	交通の妨げとなるのを防ぐために行っていたが、適切な場所ではなかった	今後、該当する場所に止めたり、通行したりしないことを周知した
信号のない見通しの悪い交差点で、右から来た車両の後部と自車の前部が接触した	見通しが悪い交差点で一旦停止をしなかった	一時停止の標識が無い交差点でも見通しが良くないところでは一旦停止をすること、横からの飛び出しなどの危険予測をすることを徹底する	

物損事故12件	左折時に巻き込み確認を怠ったため、道路の支柱と接触した	考え事をしていて注意不足となった	運転中は運転に集中し、安全確認を怠らないよう指導および周知した
	狭路左折時に回り切れず、バックしたところ、縁ブロックに接触した	後方確認が十分でなかった	バックを行う際は、目視、サイドミラーやバックモニターなどで確認をし慎重に運転するよう指導した
	後退時に後方車両の左側前方と自車右側後方が接触した	午後の作業が気になり焦って安全確認を怠った	安全優先であることを周知し、余裕をもって配車をを行うようにする
	駐車場に頭を入れ方向転換をする際に前輪と車止めの縁石が接触し破損した	思い込みと注意不足	安全確認をしっかりと行うよう指導した
	通勤中、コンビニに寄った際、左後輪を縁石に乗り上げ制御不能となり、そのまま南側出入口より車道へ出てしまい、壁に衝突した	確認が十分でなかった	周囲の状況を把握し慎重な走行を心がけるよう指導した
	ごみ収集作業時、収集車の一部(リフト)の突き出ている部分)に頭をぶつけ裂傷し2針縫った	事故予測が十分でなかった	事故の可能性を想定し、十分注して作業するよう指導した
労働災害6件	ごみ収集時、クレーゾール石鹸液が左手中指にかかった	液体が付着した手袋を替えずに継続使用したため	液体などが付着した手袋は継続使用せずに交換するよう周知した
	ごみ収集時、走った際につまずき、転倒。右ひざを打撲した	慌てて足元不注意のため	作業中は慌てず焦らずに実施すること、また走る際は特に足元をよく確認するよう指示した
	ごみ収集時、事務の椅子の足の部分が飛散し、目に当たった	飛散対策は取っていたが、時間差で飛んできた	飛散しやすいためから先に巻き込むように指示した
賞賛1件	ごみ収集時、中に入っていた割れた蛍光灯がたももに刺さった	ごみの中に割れた蛍光灯が混入していた	排出事業者に連絡し、鋭利なものや危険なものは袋に入れず別にしてもらうよう依頼した
	幼稚園の裏サイドのステーションでいつも綺麗にしてくれて助かります。周りの人も喜んでいきますとの電話をいただいた	-	社内に共有した

グッドホールディングス

件数	内容	原因	対策
労働災害1件	法務局から帰りのバスに乗車時、急発進の揺れで後ろによるめき、左足首を捻って筋を痛めた	つり革・手すりなどをしっかりとつかんでいなかった	バスで立っている際は、つり革や手すりをしっかりと持って、体を支えるように指導した
情報セキュリティ事故(限定的、軽微)1件	webサーバーへの不正アクセスおよび不正ファイルの設置(※情報の漏えいやwebサイトの改ざんは確認されておりません)	webサイト管理システムへの不正アクセス	サイト運営ツールのログイン情報の強化、webサーバーおよびサイト管理システムへのIPアドレス制御の実施、システムアップデートの定常業務化
情報システム障害(深刻、重大)2件	当日12時~21時頃まで、メール受信が遅延する・添付ファイルが添付できない、ファイルサーバーに格納されているファイルの更新が遅延する、チャットに画像の添付ができない事案が発生(当該サービスはすべて同一提供元のシステムを利用中)	サービス提供元の別システムで過負荷が発生した影響で当該システムにも過負荷がかり遅延が発生した	(サービス提供元にて)運用方針の見直し(運用SEのチェック項目を増やす、元々ある非常用システムの見直し)、システムリソースの増設
	9月2日12時頃~9月4日19時半ごろまでの間に送受信されたメールについて、送受信が正常に完了しているにも関わらず送信元、送信先にバウンスメール(正常に送受信が完了しなかった通知)が複数回にわたって送付される事案が発生した	送受信したメールをメールサーバーからバックアップシステムに転送する部分でシステム障害が発生(メールサーバーのIPアドレス変更に伴う障害)。さらにバックアップシステム導入時の初期設定にてバウンスメール送付防止機能を無効にしていたため、障害発生時から本機能を有効にするまでの間に送受信されたメールにおいて、バウンスメールが送付され続けた	(サービス提供元にて)同事象の発生を迅速に検知できるように、監視サービスを構築(自社内にて)初期設定値の確認の徹底
情報システム障害(限定的、軽微)4件	当日14時半~19時頃まで、オンラインストレージサービスにアクセスが集中し当該サービスのアクセスしづらく、ファイルのアップロードに遅延が発生した	当日発生したメール障害(ファイルが添付できない)の影響で当該サービスの利用者が急増し遅延が発生した	(サービス提供元にて)サービス環境のリソース増強
	当日12時~13時半頃まで、経費精算システムへのログインができない事案が発生した	サービス提供元でネットワーク機器の交換に伴うグローバルIPの競合が発生し通信が不安定になった	(サービス提供元にて)ネットワーク機器交換手順の見直し
当日12時~16時頃まで、勤怠管理システムへのログインができない事案が発生した	データセンター事業者の障害(ストレージへのアクセス障害)	(サービス提供元にて)データセンター事業者への再発防止の要求および、より迅速な検知・対処へと体制の改善	
当日10時~10時半頃まで、メール・ファイルサーバー・チャット・web会議サービスにアクセスがしづらくなる事案が発生した(当該サービスはすべて同一提供元のシステムを利用中)	サーバーメンテナンス時にエラーが発生し、改善処理を完了するまで一時的にユーザの操作受信を50%まで低下させた	(サービス提供元にて)サーバーの構成変更および監視の増強	

ISO26000対照表

中核主題および課題	対応ページ	中核主題および課題	対応ページ
6.2 組織統治	P03~04, 32~36	6.5 環境	
6.3 人権		6.5.3 汚染の予防	P18~20, 37~40
6.3.3 デューディリジェンス	P05~06, 41~45	6.5.4 持続可能な資源の利用	P18~20, 37~40
6.3.4 人権に関する危機的状況	P41~45	6.5.5 気候変動の緩和および気候変動への適応	P37~40
6.3.5 加担の回避	P33	6.5.6 環境保護、生物多様性、および自然生息地の回復	—
6.3.6 苦情解決	P33, 34, 45, 48	6.6 公正な事業慣行	
6.3.7 差別および社会的弱者	P33, 44, 49	6.6.3 汚職防止	P32~36
6.3.8 市民的所有および政治的権利	P43	6.6.4 責任ある政治的関与	P32~36
6.3.9 経済的、社会的および文化的権利	P50	6.6.5 公正な競争	P32~36
6.3.10 労働における基本的原則および権利	P41~45	6.6.6 バリューチェーンにおける社会的責任の推進	P01~06, 11~14, 32~36
6.4 労働慣行		6.6.7 財産権の尊重	—
6.4.3 雇用および雇用関係	P41~45	6.7 消費者課題	
6.4.4 労働条件および社会的保護	P41~45	6.7.3 公正なマーケティング、事実に基づいた偏りのない情報および公正な契約慣行	P46, 49
6.4.5 社会対話	P46~50	6.7.4 消費者の安全衛生の保護	P15~36, 46~50
6.4.6 労働における安全衛生	P41~45		
6.4.7 職場における人材育成および訓練	P41~45		



捉える、応える、超えていく

グッドホールディングス株式会社

株式会社リヴァックス

株式会社リリーフ

株式会社ダイキョウクリーン

株式会社大栄

株式会社大協

お問い合わせ先

グッドホールディングス株式会社 経営サポート部

〒662-0918 兵庫県西宮市六湛寺町14-5 太陽生命西宮ビル3階

TEL:0798-34-3425 E-mail:csr@goodhd.co.jp

